UTEC

Co-Founders for Innovation

Science/Technologyを軸に、資本・人材・英知を還流させ、
世界・人類の課題を解決するためのフロンティアを開拓する

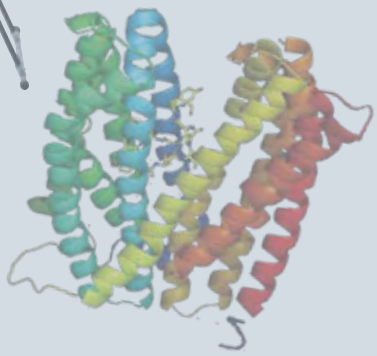
We pioneer frontiers to solve global issues of humankind, by bringing capital, talent and knowledge, around science and technology

郷治 友孝

Tomotaka Gōji

Investment Strategy

投資戦略



優れた Science/Technology

- 軸となる東京大学に加え、全国の大学、研究機関、企業、政府と連携し、インパクトのある技術をソーシング
- 必要に応じて組織を超えてテクノロジーをロールアップ

強力なチーム

- テクノロジーを活かした事業を強力に推進できるプロフェッショナルマネジメントを重視
- 製品開発・オペレーション・管理面においても強力なチームを構築

グローバルな市場や課題

- 設立当初からグローバル市場を視野
- 全人類的な課題の解決を志向

主な実績

Cirius Technologies 2010年8月 ヤフー株式会社がM&A	Morphc 2011年7月 東証マザーズ上場	Naked Technology 2011年9月 株式会社ミクシィがM&A	PHYZIOS 2013年2月 Google,IncがM&A
PeptiDream 2013年6月 東証マザーズ上場 2015年12月 東証一部上場	popIn 2015年5月 バイドゥ株式会社がM&A	GLM 2017年9月 香港上場OLuxe HDと資本提携	ACSL (株)自律制御システム研究所 2018年12月 東証マザーズ上場
mujin 2019年2月 MBO	AI inside 2019年12月 東証マザーズ上場		

Company Overview

UTECについて

2004年以来、総額で543億円規模の4つのファンドを組成

▶創　　業　2004年4月1日

▶運営会社　株式会社東京大学エッジキャピタル／株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ

▶運営する投資事業有限責任組合（ベンチャーキャピタルファンド）

UTEC 4号投資事業有限責任組合

設　立……2018年1月17日

無限責任組合員（GP）……UTEC Partners有限責任事業組合

規　模……約243.1億円

投資先……30件（保有中30件、上場1件）

UTEC 3号投資事業有限責任組合

設　立……2013年10月15日

無限責任組合員（GP）……UTEC 3 Partners有限責任事業組合

規　模……約145.7億円

投資先……31件（保有中23件、上場1件、M&A等1件）

UTEC 2号投資事業有限責任組合

設　立……2009年7月31日

無限責任組合員（GP）……UTEC、UTEC Venture Partners株式会社

規　模……約71.5億円

投資先……13社（保有中7件、M&A等2件）

ユーテック一号エグジット投資事業有限責任組合

設　立……2004年7月1日

無限責任組合員（GP）……UTEC

規　模……約83億円

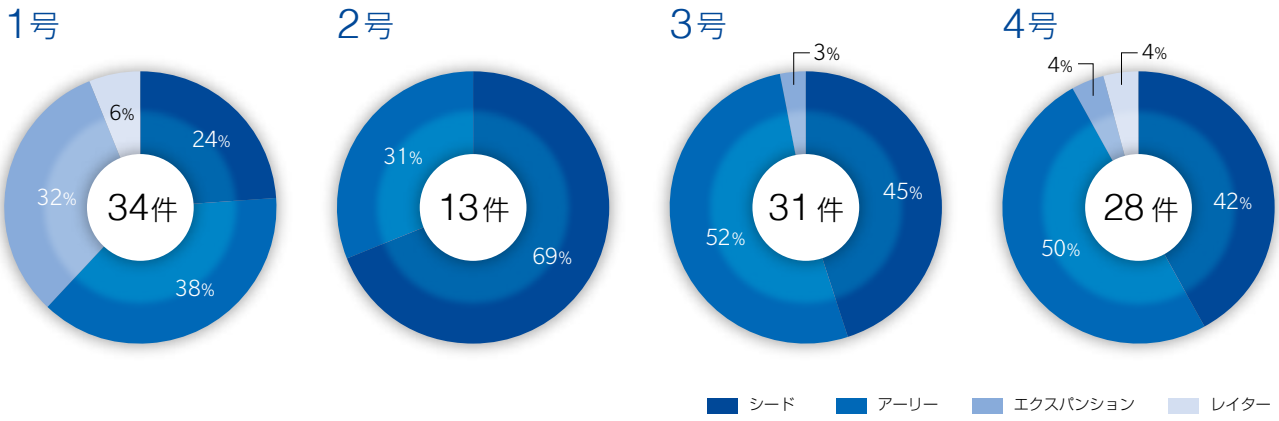
投資先……34社（上場9件、M&A等8件）

シード・アーリーをメインとした総合的なサポート

UTECの投資対象は、会社設立前のシードを含むアーリー段階

初回投資時のフェーズ※1,※2

件数ベース／%



※1　フェーズの定義については、2017 National Venture Capital Association Yearbookを基準としている
※2　2020年6月時点。ただし、複数ファンドより並行投資している案件は各々のファンドでカウント（FoF出資は除く）

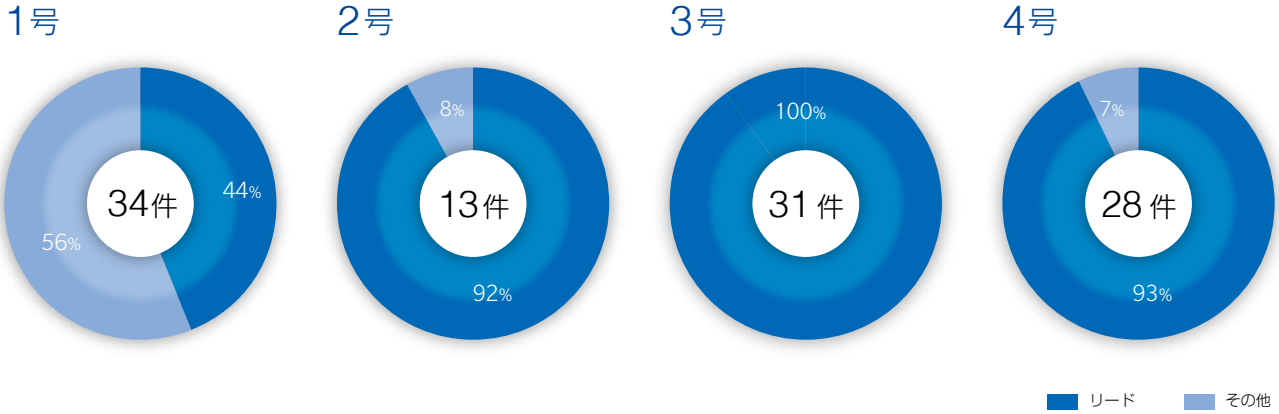
強いコミットメント

リード投資家として、投資先の経営・ファイナンス面を支える

※ほとんどの投資先に対して、リード投資家として取締役や監査役を派遣し、積極的にバリューアップ・経営支援

リードポジションの割合※1,※2

件数ベース／%



※1　過去のファイナンスにおいてリードポジションを取ったことがある、取っている件数の割合
※2　2020年6月時点。ただし、複数ファンドより並行投資している案件は各々のファンドでカウント（FoF出資は除く）

グローバル展開

大学・研究機関との連携及び
ポートフォリオのグローバル進出

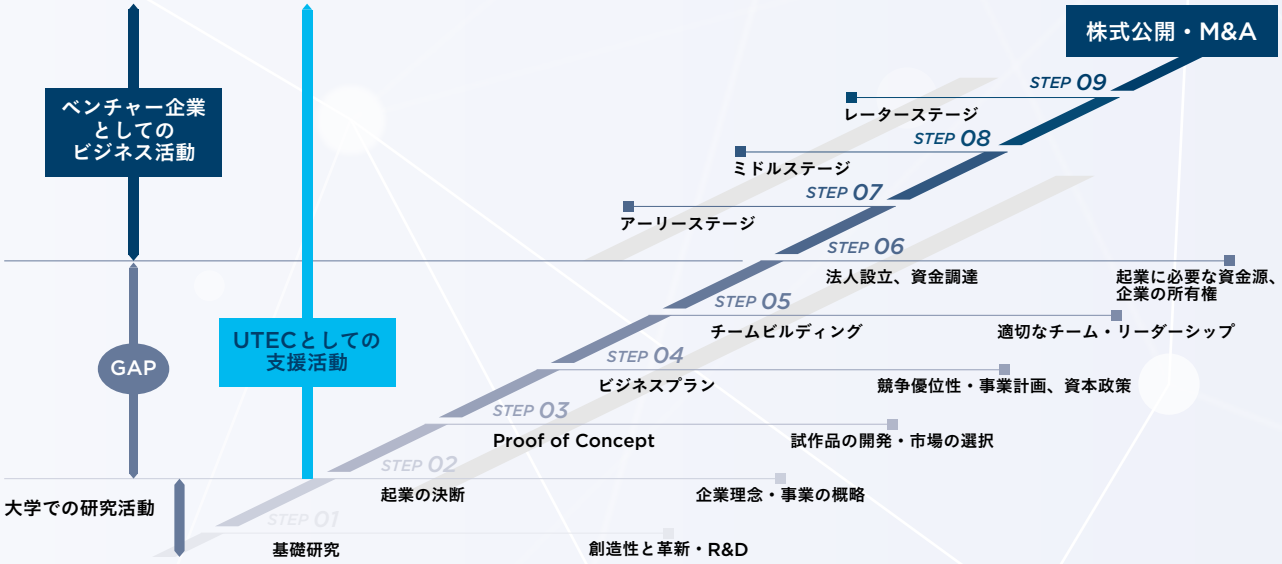
Network

FRED HUTCH
CURES START HERE
フレッドハッチンソンがん研究センター
Massachusetts Institute of Technology
マサチューセッツ工科大学
Berkeley
UNIVERSITY OF CALIFORNIA
カリフォルニア大学バークレー校
THE UNIVERSITY OF CHICAGO
シカゴ大学
ARCH ベンチャーパートナーズ
スタンフォード大学
LOCIX
908devices
FUSION
elixirgen
tellus
nelumbo
Faraday
OPAL
東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO
Keio University
Waseda University
明治大学
千葉大学
名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY
大阪大学
Carnegie Mellon University
カーネギーメロン大学
広島大学
九州大学
弘前大学
RIKEN
産総研
THE UNIVERSITY of NORTH CAROLINA at CHAPEL HILL
ノースカロライナ大学 チャペルヒル校
UNIVERSITY OF MARYLAND
メリーランド大学
NATIONAL INSTITUTES OF HEALTH
米国国立衛生研究所

Startup Support Program

インベストメント・フロー

UTECの投資・支援



Sponsorship

大学へのスポンサーシップ

UTECは、2017年より東京大学の10の部局との間で19のプロジェクトのスポンサーシップを開始し、研究者や学生へのサポートを強化。
ベンチャーキャピタル事業の成果をもとに、東大をはじめとした他大学、研究機関へのサポートを拡充しております。

東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO

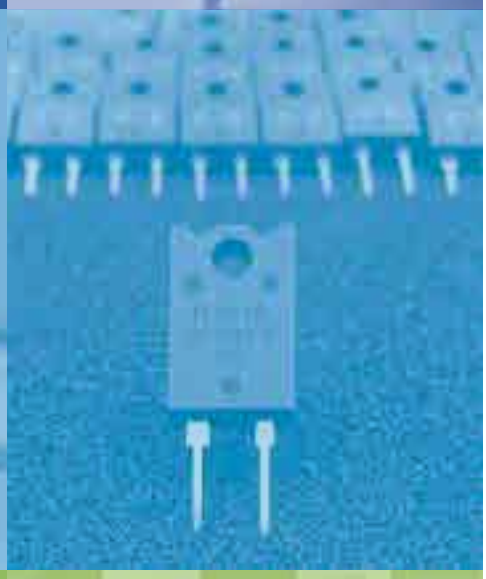
- 大学院法学政治学研究科
  法・政治分野における先端的科学技術の活用と分野融合研究
- 医学部付属病院
  学術研究助成トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ（TR 機構）
- 大学院工学系研究科
  自分で守る健康社会 COI 拠点：医療技術評価実験室関連寄附金
- 大学院工学系研究科
  社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム（GSDM）の人材育成および研究基盤強化
- 大学院農学生命科学系研究科
  農学創発基金（若手研究者支援事業）
- 大学院薬学系研究科
  薬学若手研究支援
- 大学院新領域創成科学研究科
  新領域創成科学研究教育振興基金
- 医科学研究所
  若手研究者育成プロジェクト
- 本部・研究推進部
  東京大学卓越研究員支援
- 東京大学基金 UTEC東京大学未来社会協創基金
  UTEC-UTokyo FSI Research Grant Program
- 大学院医学系研究科
  ライフイノベーション・リーディングプログラム
- 大学院工学系研究科
  リーダー博士人材育成基金
- 大学院工学系研究科
  Deep Learning 人材育成基金
  ブロックチェーン・イノベーション寄附講座
- 大学院理学系研究科
  理学若手未来基金
- 大学院経済学研究科
  金融教育研究センター助成金
- 大学院新領域創成科学研究科
  新領域研究助成金（河野 重行 東京大学名誉教授）
- 大学院情報理工学系研究科
  情報理工学系研究基盤整備プロジェクト
- 生産技術研究所／先端科学技術研究センター
  駒場リサーチキャンパス・若手海外自由展開・研鑽支援プログラム
- 本部・学生支援部
  スポーツ振興基金・運動部器具備品基金

名古屋大学 NAGOYA UNIVERSITY

- 学術研究・産学官連携推進本部
  大学発ベンチャー応援事業
  アントレプレナーシップ教育、アントレプレナー育成、大学発ベンチャー起業支援を行う大学発アントレプレナーシッププログラム「Tongali プロジェクト」

千葉大学

- 工学研究院
  インテリジェント飛行寄附講座
  次世代電動エアモビリティの基盤技術としての安全性、効率性、環境性を満たすインテリジェント飛行ロボティクス技術の研究開発活動とドローン分野における若手人材育成



UTEC Portfolio Companies

投資先企業

Life Science & Healthcare p8-14

immunoSCAPE PTE. LTD.
エディットフォース株式会社
株式会社 Epigeneron
Elixirgen Therapeutics, Inc.
オリシロジェノミクス株式会社
クオンタムバイオシステムズ株式会社
株式会社クリュートメディカルシステムズ
五稜化薬株式会社
ソシウム株式会社
タグシクス・バイオ株式会社
株式会社糖鎖工学研究所
TRICOG HEALTH PTE.LTD.
BUGWORKS RESEARCH, INC.
bitBiome 株式会社
Faraday Pharmaceuticals
ブレインイノベーション株式会社
株式会社ミルテル
株式会社 MOLCURE
Repertoire Genesis 株式会社

IT p16-24

株式会社アイデミー
株式会社アダコテック
Institution for a Global Society 株式会社
VividQ Limited
株式会社 estie
株式会社 ELEMENTS
株式会社お金のデザイン
OPALai Pte. Ltd.
株式会社 CambrianRobotics
シーオス株式会社
スタートバーン株式会社
SWAT MOBILITY PTE. LTD.
株式会社 Zenmu Tech
Tellus You Care, Inc.
株式会社ティアフォー
株式会社日本データサイエンス研究所
ニューラルポケット株式会社
株式会社 Finatext ホールディングス
Forty Two Labs Private Ltd. (Evie.ai)
Fyusion, Inc.
フレセッツ株式会社
株式会社レトリバ
Locix Inc.
株式会社 ROMS
WASSHA 株式会社

Physical Science & Engineering p26-29

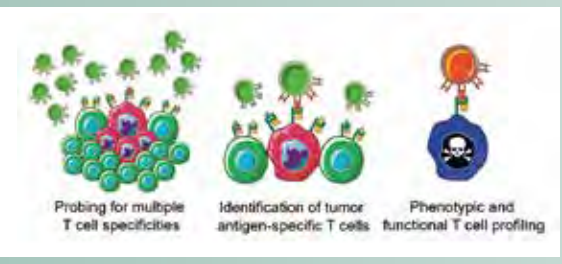
株式会社アルガルバイオ
株式会社 ASM
エクセルギー・パワー・システムズ株式会社
Green Earth Institute 株式会社
908 Devices Inc
NExT-e Solutions 株式会社
Nelumbo
BionicM 株式会社
株式会社 FLOSFIA
ベジタリア株式会社
マイクロ波化学株式会社
株式会社ルートレック・ネットワークス

Fund p30

Deep30 投資事業有限責任組合
Blume Ventures – Fund III

アラムナイ p32-33
Team p34-38
その他役員及びシニアアドバイザー p39

投資先企業 Life Science & Healthcare



Immunological insights provided by immunoSCAPE

Map of immune response landscape

immunoSCAPE PTE. LTD.

Enabling immunotherapy through high-dimensional immune profiling

Q1 A*STAR Singapore Immunology NetworkのEvan Newell博士らによって開発された免疫プロファイル技術を活用し免疫療法の発展及び治療法の確立に貢献する為に起業

Q2 マスサイトメーターを用いて免疫プロファイルを解析できる世界唯一の会社。特に抗原特異的T細胞を網羅的に解析することで新規抗原やバイオマーカーを開発し、開発中の免疫療法の有効性・安全性を高める

Q3 グローバルな事業開発の支援、東京大学をはじめとする日本アカデミアとの連携支援、経営体制・チーム強化

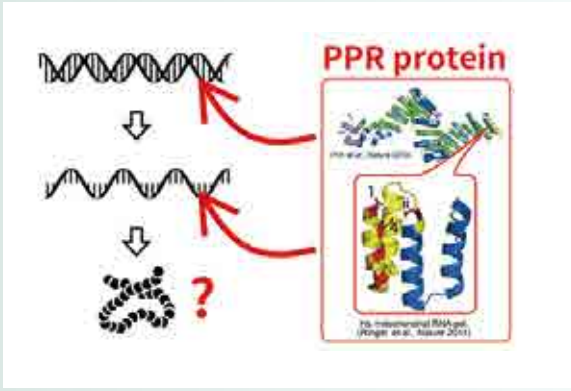
エディットフォース株式会社

日本発のゲノム編集技術を通じて国内外の
創薬、農業、物質生産の産業革新に貢献する

Q1 海外で先行するZFN、TALEN、CRISPR等のゲノム編集技術に対して、日本発のゲノム編集技術を事業化すべく、九州大学の中村崇裕准教授が発明したPPR技術をコア技術として設立

Q2 PPR技術はゲノム編集の主流であるDNAのみならず、その下流であるRNAも認識が可能。DNA/RNAの両方が編集可能な世界初のゲノム編集ツールで、ポストゲノム時代の革新的な企業となる

Q3 事業計画のブラッシュアップ。経営人材、パートナー等の紹介。IPOなどのエグジット体制構築支援



PPRがDNA/RNAに作用する模式図

遺伝子座特異的ChIP

集合写真

株式会社Epigeneron

新薬を開発することにより、全ての人を病の苦しみから解放できる社会の実現

Q1 現弘前大学大学院医学研究科教授の藤井穂高氏らによる遺伝子の転写等を制御するエピジェネティック制御因子等を固定する遺伝子座特異的ChIP法の開発によって、ゲノム機能の局所的生化学的解析が可能になり、ゲノム機能の異常に起因する疾患の治療法の開発が格段に容易になったため

Q2 遺伝子座特異的ChIP法をはじめとする革新的な技術の開発力。現在ホットな領域ではなく、先々を見据えた展望力や問題の打開力

Q3 特許周りの強化や業務支援者の紹介により、事業基盤の整備がなされた。今後は、資金面でのサポートに加えて、ビジネスモデルの構築やその更新に関するアドバイスを期待

質問内容

Q1 起業の発端

Q2 何が強みか（競争優位性）

Q3 UTECのバリューアップ（貢献）

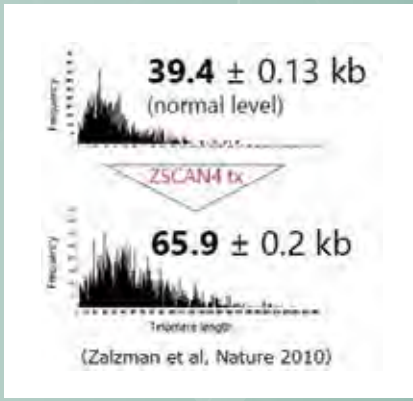
Elixirgen Therapeutics, Inc.

ZSCAN4を用いた細胞治療法による希少疾患の治療を目指す

Q1 慶應義塾大学洪実教授が米国NIH時代に発見した遺伝子ZSCAN4の臨床応用

Q2 ZSCAN4遺伝子が幹細胞のゲノム安定性を増しテロメアを伸長するという発見に基づく。ZSCAN4をゲノムを障害しない、より安全なRNA治療薬の形で造血幹細胞などの細胞に導入する技術を開発。米国FDAとPre-INDを終了し、先天性角化不全症を含むテロメア病の早期臨床治験を目指す

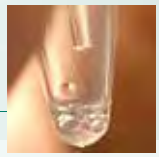
Q3 臨床治験にむけての加速資金、事業体制構築のサポート、企業・投資家・人材などへのネットワークハブ機能



ZSCAN4によるテロメア伸長の例

大腸菌ゲノムの複製プロセスを試験管内で再現

DNA断片からゲノムサイズのDNAを効率的に合成



粘性の高い、合成された長鎖DNA

オリシロジェノミクス株式会社

革新的なDNA合成・増幅技術を基盤とした合成生物学企業

Q1 当社創業者の一人である末次正幸立教大学准教授が内閣府の研究促進制度であるImPACTプログラムの下で、細胞を使わずに長鎖DNAを増幅する画期的な技術を発明。バイオの新たな成長分野として期待される合成生物学の基盤技術として実用化する目的で、UTECが主導して起業した

Q2 バイオの研究開発に欠かせない長鎖DNAの増幅には現在、大腸菌を始めとした微生物の細胞が使われているが、手間と時間がかかる問題があった。当社技術では細胞を使わずにたんぱく質のみで増幅することができ、研究の手間と時間を大幅に省くことができる。さらには従来手法では増幅できなかったDNA配列も増幅可能となり、研究開発の対象を飛躍的に拡大できる。また、複数のDNA断片を同時に連結させて長鎖DNAを従来よりも高い効率で合成する技術も保有する。連結と増幅の技術を組み合わせることで、ゲノムサイズのDNAを簡便にかつ高効率で合成することが可能となる

Q3 この技術の革新性に早い段階から注目し当社の起業プロセスの全ての側面に関与、発明を事業化するプロセスを主導した。さらにシリーズA投資により、事業活動を本格的に開始できた

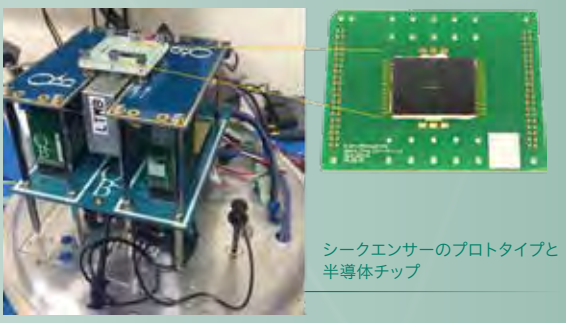
クオンタムバイオシステムズ株式会社

革新的DNAシークエンサーの開発により、遺伝情報を活用した新産業を興していく

Q1 大阪大学、川合知二・谷口正輝両教授の研究成果をもとに、革新的DNAシークエンサーの開発を行うことを目的として2013年1月に設立

Q2 従来技術に比べて、簡易に、高精度に、低価格でDNA解析を実施することが可能。また、DNA修飾情報などの既存技術では取得できない情報を取得することが可能

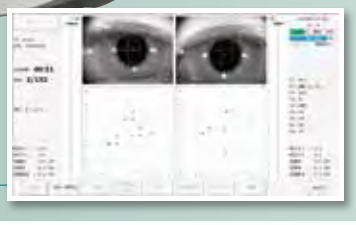
Q3 シリーズA（リードインベスター）、シリーズBラウンドでの出資を通じた、資金面でのサポート。外部取締役としての積極的な経営関与、重要な意思決定にあたる貴重な助言



シークエンサーのプロトタイプと半導体チップ

投資先企業 Life Science & Healthcare

ヘッドマウント型視野計アイモ



測定画面

株式会社クリュートメディカルシステムズ

クオリティ・オブ・ビジョンの向上に貢献し、生涯『しっかり見える』を！

CREWT

Q1 前職のHOYA株式会社において立案した新規事業企画の起業化チャンスをいただき起業。技術顧問には、東大病院眼科相原教授が就任

Q2 光学技術に基づく、モノ（医療機器）づくり

Q3 経営参画による企業価値向上、助成金申請など外部への訴求文書や事業計画書のブラッシュアップ、資本政策に関する助言や専門家の紹介など、実務面・メンタル面で支えていただいたことで当初の計画から大きな遅れなく遂行し企業価値を大いに高められた

五稜化薬株式会社

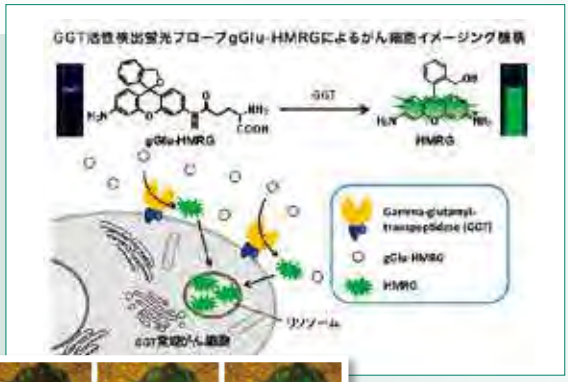
蛍光色素の専業メーカー 五稜化薬株式会社

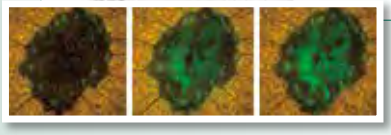
日本発のがん術中迅速診断のためのナビゲーションドラッグの開発

Q1 ケミカルバイオロジーを駆使して、創薬支援のための研究試薬開発のみならず、蛍光プローブの医療応用を目指し、2010年、北海道大学の知財を活用し札幌にて創業

Q2 創業後、東京大学の浦野泰照研究室が開発した蛍光色素や診断薬のプラットフォーム技術を導入することができたこと、並びにそれら色素の効率的な合成能力を自社に保有していること

Q3 事業計画の再構築ならびに長期的な成長を見据えた資金調達や人材紹介など包括的なハンズオン





がん検出の反応機構

ヒト食道がんESD摘出検体にEP-HMRGをスプレーする前（左）とスプレーした後5分（中央）、スプレー後10分（右）の色調変化。（がん部位は左写真の点線で示した部位。中央付近の緑に光っている部位がEP-HMRGによる蛍光シグナル。）

ソシウム株式会社

SOCIUM

未だ満たされない治療ニーズに応えることで、人びとの健康に貢献

Q1 産業技術総合研究所の堀本勝久が開発した独自の遺伝子発現情報解析アルゴリズムを基に、創薬支援プラットフォームの開発・実用化を目指して2017年に創業

Q2 従来の解析技術に比べて、生物学的意義に基づく疾患関連遺伝子とそれらが構成するパスウェイを高精度に抽出することで、医薬品の開発成功率を高める

Q3 資金調達とグローバルレベルでの事業提携のサポートやそれを実現する経営人材のリクルーティングサポートに期待

複数特許から構成されるサービスフロー

独自のアルゴリズムに基づく解析

質問内容

Q1 起業の発端

Q2 何が強みか（競争優位性）

Q3 UTECのバリューアップ（貢献）

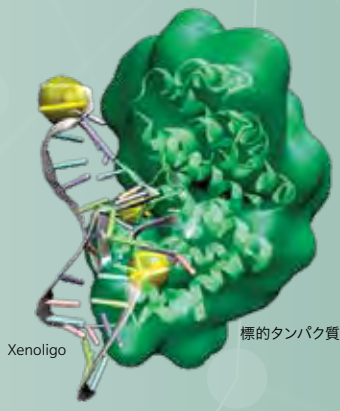
タグシクス・バイオ株式会社

効果が高く安全かつ低コストな核酸医薬品を創生し、医療経済界に改革をもたらす

Q1 「人工塩基対技術」の普及と幅広い分野での実用化を目指して、平尾一郎氏等が中心となり、2007年に起業。2016年より、創薬開発を主事業として活動開始

Q2 独自開発の創薬探索技術を用いて、核酸医薬品（Xenoligo™）を効率よく創り出すことができる。Xenoligo™の標的物質に対する高い親和性と高い選択性、独自開発の安定化技術が強み

Q3 世界に向けた日本発のバイオベンチャーとして、大きく成長できるための支援をお願いしたい



疎水性の塩基Dsを含むXenoligo™と、標的タンパク質との結合

高品質・低価格な糖ペプチド・糖タンパク質の生産

株式会社糖鎖工学研究所

糖鎖技術を応用するバイオ医薬品のパラダイムシフト

Q1 前職の大塚化学株式会社における研究開発や大阪大学梶原康宏教授との共同研究の成果に基づき、高純度ヒト型糖鎖の大量調製実用化と糖鎖応用によるバイオ医薬品への機能性付与の実証を行うために創業

Q2 糖ペプチド、糖タンパク等のバイオ医薬創薬の精密化学合成による創薬スクリーニングシステムと原薬の商業生産

Q3 起業時の資金調達と、ライフサイエンスネットワークによる支援

ラボ風景

TRICOG HEALTH PTE.LTD.

効率的・迅速なAI心電図解析により、新興国における心臓病関連の死亡者を減らす

Q1 CEO自身がインドにおいて長年循環器の医師。多くの患者が適切な治療を受けるまでに時間がかかってしまっていることに強い危機感を覚えて起業

Q2 アジア・アフリカを中心に400万人以上の医師診断付きのECG診断データを収集。社内外に30名程度の専門医を抱えHP-GP、医療機器メーカと連携したサービスを展開。集めたデータを機械学習により解析。インドを中心に東南アジアやアフリカで2,500以上の医療拠点にサービスを展開

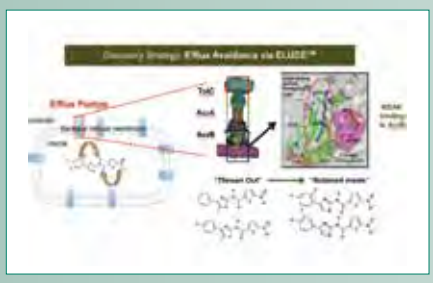
Q3 ファイナンス面のアドバイスに加え、医療機器メーカーとの協業や、日本の大学病院による共同研究の促進

AI解析はあくまで医師の診断サポート

アジア・アフリカの12か国で展開

機器は後付け可能。医療現場の導線は不変

投資先企業 Life Science & Healthcare



Proprietary ELUDE™ platform of Bugworks

BUGWORKS RESEARCH, INC.

幅広い薬剤耐性菌に効力をもつ新規抗生物質の開発

Q1 Bugworksは製薬業界での豊富な経験を有するDr.Anand Anankumar、Dr. Santanu Datta、Dr. V Balasubramanianのチームによって、AMRの世界的課題を解決するため、2014年に創業された。2017年7月には権威あるCARB-X grantにアジアで初めて選出された。インドのバンガロールに研究室をもち、創薬分野で総計200年超の豊富な経験を有するPh.D取得の研究者チームを擁するとともに、アメリカ、オーストラリアにもチーム体制を拡大させている

Q2 Efflux Unbinding (ELUDE™ platform)：Bugworksの開発化合物は細菌外への薬剤排出を回避できる構造をもつため抗菌作用が持続
Dual-target Mechanism：最も進んでいる開発品はバクテリアのDNA構造に関与するGyraseとTopo IVという2つの酵素に同時に作用可能
Broad-spectrum utility：薬剤耐性菌として知られるすべての細菌(NDM, KPC, ESBL, MRSA等)に効力を有する

Q3 日本の製薬会社との提携機会の提供とともに、東京工業大学の村上聡教授との協業につきUTECから支援を受けている。多剤排出トランスポーターAcrBの結晶構造を解明した村上教授は、UTECの紹介により当社のScientific advisorに就任いただいた。財務管理や資金調達でも支援を受けている

bitBiome株式会社

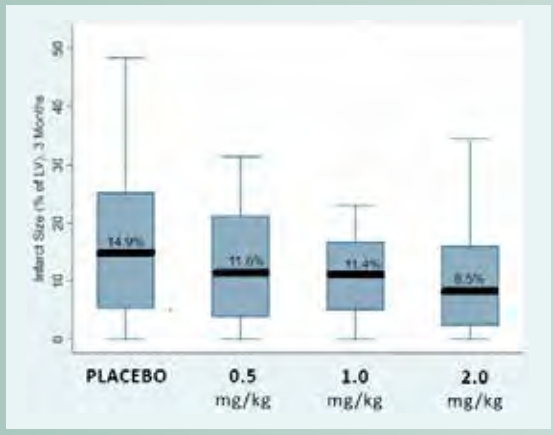
次世代マイクロバイオーム解析により、未知の微生物から新産業を創出する

Q1 早稲田大学 細川正人研究院講師が開発したシングルセルゲノミクス技術に基づき、次世代マイクロバイオーム解析を活用した新産業の創出を目指して2018年に起業

Q2 世界で初めて微生物に適合したシングルセルゲノミクス技術を確立し、従来解析困難であった微生物ゲノムデータの蓄積が可能となった。従来技術と比較してデータ精度と情報量が圧倒的に優れており、同社しか提供できない共同研究・受託解析サービスを顧客に提供する

Q3 共同創業者として、事業計画、知財戦略、チームビルディングなど多角的なサポート

シングルセルゲノミクスのワークフロー



第2相試験における梗塞領域拡大抑制効果

Faraday Pharmaceuticals

Pioneering the use of specific, reduced forms of natural elements — elemental reducing agents — to improve quality of life after acute, critical illness.

Q1 Faraday社は、米国Fred Hutchinson Cancer Research CenterのMark Roth博士により開発された技術を用いた新しい治療薬を開発するために2014年に設立された

Q2 Faraday社が開発するFDY-5301は過酸化水素を触媒作用により分解する能力を持つ。従来技術であるビタミンC等の抗酸化物質とは異なるメカニズムで活性酸素種を分解することができる

Q3 日本における産学連携、事業開発及び規制関連業務の支援

質問内容

Q1 起業の発端

Q2 何が強みか（競争優位性）

Q3 UTECのバリューアップ（貢献）

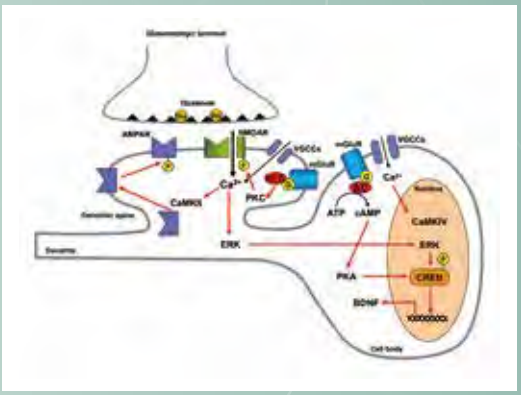
ブレインイノベーション株式会社

アルツハイマー病の新規治療薬開発による
医療イノベーションへの貢献

Q1 東北大学大学院薬学研究科の森口茂樹が見出した研究成果に基づく知財を活用し、認知症・生活習慣病等の新規治療薬開発を目指して2018年8月に創業

Q2 東北大学と弊社が共同保有する特許により、既存薬とは異なる新規メカニズムに基づく認知症・生活習慣病等の新規治療薬の開発を推進できること

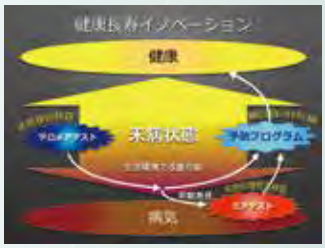
Q3 事業計画やチームビルディングに対するアドバイス、シード期におけるファイナンス等の支援。引き続き、ファイナンス組成、BD活動、チーム強化、IPO準備等の支援を期待

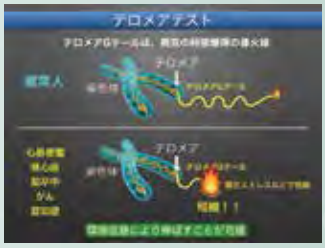


脳における認知機能改善機構

株式会社ミルテル

医療イノベーションで「疾患になりにくい社会」を実現し、健康長寿と医療費削減に貢献





Q1 広島大学田原栄俊教授が、一緒に研究した学生を若年性胃がんで亡くし研究の実用化の重要性に気づいたことをきっかけに、自ら開発したGテール長測定技術を未病検知検査へ応用・事業化することを決断。さらにマイクロRNAによる早期発見検査により健康長寿社会に貢献したい

Q2 世界唯一のテロメアGテール長測定技術を用いた「未病検知検査」と独自の疾患特異的な体液中マイクロRNAによる「疾患の早期発見検査」を日本で初めて開始

Q3 資金面・経営面・事業面でのサポート、組織体制の強化、知財管理とライセンス契約交渉のノウハウ

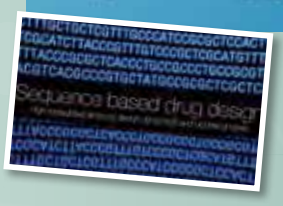
株式会社MOLCURE

有効な薬が見つかっていない疾患領域に対し有用な抗体をデザインする

Q1 慶応義塾大学にて科学者としての修行に励んでいた代表取締役社長 小川隆が、がんによる父の他界をきっかけに、問題を直接解決するためには、地球上のすべてのリソースを活用し、新薬創製における最短ルートをキャリアとして選択すべきと考え起業

Q2 抗体を作成するための従来手法に次世代シークエンサーと機械学習を組み合わせ、抗体ライブラリから既存手法では検出できなかった高機能抗体の獲得を可能にした創薬プラットフォームを開発した

Q3 資金提供による事業の加速、技術シナジーの高いコラボレーター及び顧客のご紹介、事業戦略のブラッシュアップなど、多角的なサポートを受けている



独自開発した
抗体作製法：Abtracer

質問内容
Q1 起業の発端
Q2 何が強みか（競争優位性）
Q3 UTECのバリューアップ（貢献）

免疫細胞受容体TCR／BCRレパトア解析

がん細胞遺伝子変異・抗原探索システム
ネオエピトープ解析

Repertoire Genesis株式会社

REPERTOIRE GENESIS

次世代の免疫多様性解析を基盤にし、診断／治療法開発に革新をもたらす

Q1 元塩野義製薬の鈴木隆二氏が開発した非バイアス遺伝子増幅技術の次世代シークエンサーへの応用と専用バイオインフォマティクスソフトウェアの開発によって、免疫細胞受容体（TCR／BCR）における高速高精度な次世代レパトア解析技術が確立されたこと

Q2 免疫の多様性を世界で唯一、抗原と抗体の両側面から正確かつ網羅的に解析できる技術を有している。生体内で起きている免疫応答を詳細に把握することができるため、免疫系に作用する治療薬および診断薬の開発を飛躍的に効率化することが可能である。東京大学医学部附属病院やカリフォルニア大学サンディエゴ校をはじめとする国内外の多数の研究機関や製薬会社等で解析サービスが利用されており、共同研究等により更なる解析の高精細化にも努めている

Q3 ベンチャー育成のノウハウやネットワークを生かした支援と投資によって、創業が実現できたとともに、創業後の事業化における基盤整備も加速化された

UTEC Portfolio Companies

MEMO

オンラインコンテンツ
特有の学びやすさ

株式会社アイデミー

AIの内製化支援を行うリーディングカンパニーへ

AI組織内製化や
AIシステム運用の支援

AIの実運用を簡潔化する
プラットフォーム「Aidemy
Technology」

Q1 代表の石川聡彦は東京大学工学部在籍時に機械学習の応用分野を研究。AIプログラミングに取り組む敷居の高さを感じ、今日不足している人工知能エンジニア(人工知能を使えるデータサイエンティスト等)を養成するため、「Aidemy」のサービス開発に取り組んだ

Q2 法人及び個人向けにAIプログラミング特化型養成プラットフォーム“Aidemy”を運営するとともに、法人向けにAI組織内製化やAIシステム運用のための支援事業を提供。強みは、環境構築不要で10秒で学習を始められるUX、国内最大65,000人以上のユーザー数を誇るAI研修サービスとして多くのユーザーを育成してきた実績、顧客企業がAIを用いたデータ分析を社内で行えるよう組織設計からAIの実運用までサポートしてきたノウハウの蓄積

Q3 シードステージからのファイナンス、経営戦略の策定、チームビルディング、顧客企業紹介など

株式会社アダコテック

モノづくりの進化と革新を支える

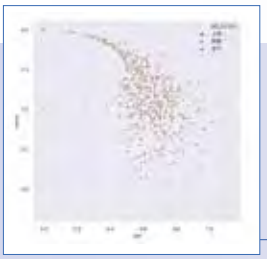
Q1 国立研究開発法人産業技術総合研究所(産総研)の革新的な技術「高次局所自己相関特徴抽出法を用いた適応学習型認識方式」を中核とした異常検知AIの実用化を目指して2012年に設立

Q2 少量の教師データでも異常をほぼ100%検出できる異常検知AIが強み。汎用PCでもミリ秒単位で高速に結果を出すことができ、異常の原因もブラックボックス化せず説明が可能である点も評価され、特にタクトタイムが厳しく説明責任が問われる難易度が高い検査現場への適用が進んでいる

Q3 リードインベスターとしてシリーズA資金調達を主導。事業戦略、人材採用、事業開発等の経営支援

少量のデータでも異常をほぼ100%検出(電子基板の写真)

社会インフラの異常自動判定
技術を実用化
(トンネルの写真)



企業向け気質・コンピテンシーAI測定ツール「GROW360」が解明した、ある企業での人材評価能力の実態(多面評価スコア平均×スコア分布)

Institution for a Global Society株式会社

世界で共創・競争できる企業と人材を増やし、
今まで以上に平和な世界の実現を目指す
人を幸せにする評価・教育で、幸せをつくる人を、つくる

教育機関向け気質・コンピテンシーAI測定ツール「Ai GROW」のクラスマネジメント機能。受検結果を基にリーダーシップ、イノベーション、3つの思考力について生徒を現状の能力・課題別にマッピング。さらに能力を効果的に伸ばすグルーピングも提案。

ゲーム形式の気質測定ツール「IAT」
指の動きで潜在的な気質傾向を
測定することが可能。国際特許取得

Q1 日本企業の人材の共創・競争力が世界で著しく減少している原因が、科学的でない教育・人事領域にあることに気づく。世界最大の投資企業でクウォンツアナリストと経営を担った経験と研究人脈(東京大学等との共同研究)が起点となっている

Q2 国際機関・政府・教育委員会・学校・大企業までの幅広い顧客に対し、小学生からシニアまでのビッグデータを活用し、世界で幸せの連鎖を引き起こす人材評価・教育を行うPeople Analytics × Ed Tech企業

Q3 法人営業の戦略に関するアドバイス、政府・企業・大学とのネットワーク提供、ファイナンス支援まで、幅広い経営支援をいただけるパートナー

質問内容

Q1 起業の発端

Q2 何が強みか（競争優位性）

Q3 UTECのバリューアップ（貢献）

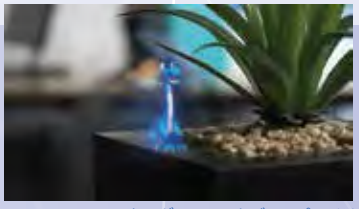
VividQ Limited

3Dホログラフィックディスプレイのマスへの普及を目指す

Q1 前身はデータ圧縮のスタートアップだったが、2017年に、コアとなっていたホログラフィ技術を転用し、ケンブリッジ大学Centre for Advanced PhotonicsのTim Wilkinson教授の支援も得て、3Dホログラフィックディスプレイのコアソフトウェア開発事業としてリスタートした

Q2 ①画質・計算速度・スケーラビリティを全て両立したホログラム計算・光学的収差の計算的補正技術およびその高速実装、②ホログラフィックディスプレイの構成に必要な各パーツのメジャーなサプライヤとのパートナーシップ

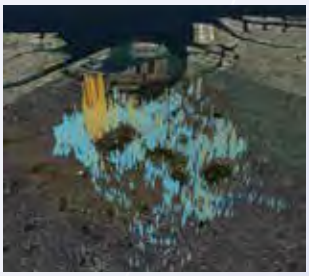
Q3 シードラウンドの共同リード、日本市場におけるビジネスディベロップメント、日本のアカデミアとのリレーションシップ構築



VividQのホログラフィックディスプレイは「深さ」を表現可能

アプリケーションの一つであるAR HUDは、実世界のオブジェクトに合った形で情報を重畳

ケンブリッジ大学やオックスフォード大学などのPhD人材を多数擁するVividQのチーム



個別オフィスビル賃料を可視化するアルゴリズム

地図上に不動産統合データベースを構築

株式会社estie

UPDATE REAL ESTATE

Q1 創業者が三菱地所にて海外不動産投資・オフィス賃貸営業を行うなかで、個別不動産のパフォーマンスに関する統計解析の手法を構築・実践。プロでも十分な論理的根拠に基づく客観的意思決定が行われていない、ましてテナントは不十分な情報の中で意思決定を強いられている不動産業界の現実に課題意識をもって起業

Q2 賃料をはじめとした不動産にかかる定量指標の推定アルゴリズムや物件のリコメンドアルゴリズムとそれを支える不動産業界の知見。アルゴリズムは、データ収集、理解、補完、整形までの一連の過程において事業用不動産事業の知見を活かし、独自に構築した市場最大級の統合データベースによるもので模倣が困難。

Q3 シリーズAのリードインベスター、企業価値向上に向けた戦略・オペレーション・セールス&マーケティング、人材採用の支援

株式会社ELEMENTS

生体認証で生活をより便利に安全に

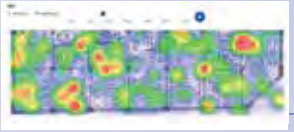
Q1 慶應義塾大学法学部を卒業し、統計数理を専門とする久田康弘が、法医学の統計学による鑑定技術とコンピュータービジョニングにより技術開発に着手。現在、慶應義塾大学の青木研究室と共同研究を実施している

Q2 生体情報のインデックス化、深層学習による生体情報の高速検索、及び独自開発の認証システムをコア技術として保有。IoP（Internet of Person）

Q3 リクルーティングのサポート、事業計画の立案サポートに加えて、セールスサポート、ファイナンス面のリード、政府機関へのご提言や大手企業へ技術をベースに、ファインテック分野、リテール分野、不動産分野の事業を展開のご紹介

SYMBOL　3Dスキャニングサービスと人体の体形（型）データに特化したAIエンジンを提供

eKYC生体認証クラウドで培った精度の高い画像照合



MYCITY画像認識などのセンシング技術を活用し、都市と個人をつなぐプラットフォームを構築

投資先企業 IT

THEOサービストップ画面

一人ひとりにあった資産運用プランを提案。その数は231通り。

株式会社お金のデザイン

お金のデザイン

テクノロジーの力で金融サービスを民主化し、
人とお金の新しい関係を創る

Q1 円安・インフレ・超低金利などの市場環境の変化によって、円で資産を持っておくことが必ずしも最適な資産保全方法とは言えない時代に日本が突入しているなか、京都大学加藤康之教授と共同開発した投資運用エンジンを活用して適切なアルゴリズムを提供することで、一般個人に対し、プロのアセットマネージャーが富裕層向けに提供しているものと同等の高度なアルゴリズムによるグローバル分散投資を行うことを可能にしたいと考えたため

Q2 アカデミアと投資運用実務の双方に根差した運用チーム、金融規制業種における経験を有する金融チーム、良質な顧客体験を追求するインターネット業界出身者の組み合わせ

Q3 投資運用の正統性・信用力の補完と強化。適切な経営上のアドバイス

OPALai Pte. Ltd.

先物の価格、ヘッジ、トレーディング戦略にフォーカスしたAIドリブンのデジタルプラットフォーム

Q1 OPALaiは2017年にハーバード大卒で先物デリバティブの分野で20年以上の経験(7か国 ：Deutsche Bank, Citigroup, Rabobank、ADM)があるPravin Chandrasekaranによって創業された。OPALaiはEDB(Economic Development Board).による補助金を基に、シンガポールにおいて設立

Q2 OPALaiは機械学習及びディープラーニングによる統計的手法を組み合わせながら、先物価格に関連する400-500の特徴点を分析している。歴史的に株式を中心に利用されていたContinuous-Time Finance(CTF)等の資産価格評価の技術を先物のプライシングに応用している。OPALaiは世界各地において、10以上のグローバルなクライアントを獲得しており、セクターはエネルギー、金属、農作物等多岐に渡る

Q3 シードラウンドにおける唯一の投資家として、日本における商社、金融機関、製造業等の顧客開拓や日本のアカデミアとの共同研究機会を提供

OPALai's Product Offerings for Pricing, Hedging and Trading

OPALai's Product Performance (for Illustration purpose)

obnizとそのプログラム画面

株式会社CambrianRobotics

Cambrianrobotics Inc.
Optimize the World with Technology

Make Everything Online

Q1 従来までのマイコンボードを用いたIoTでは、開発環境の構築や特殊な開発言語、ソフトウェアだけでなくハードウェアの知識も必要となる等様々なハードルが存在した。誰もが自由にIoT電子工作を可能な世界を実現すべくobnizを開発した

Q2 あらゆる実装・開発をクラウド経由で行うように特化し、開発工数の削減、対応開発言語の増加、それに伴う使用可能ライブラリの増加、複雑な処理の実現等が挙げられる

Q3 販売営業戦略に関するアドバイス、人材採用支援、法人顧客のご紹介、法務関係の支援等幅広い支援を頂けるパートナー

obnizを接続し自動運転化したラジコンカー

システム図

質問内容

Q1 起業の発端

Q2 何が強みか（競争優位性）

Q3 UTECのバリューアップ（貢献）

シーオス株式会社

SEAOS

ロジスティクス領域で、人間とAI/ロボットが協働する社会を実現

Q1 外資系コンサルティング時代にロジスティクスのグローバル・タスクフォースでのプロジェクト経験とベンチャー・インキュベーション事業に携わり、幼少のころからの起業家への夢がタイミングとして一致。ロジスティクスの分析・設計に絶大な自信があったこと

Q2 医療、小売、製造等、多業界の物流マネジメントを、戦略レイヤーから現場受託まで手がけることで物流IT化の機能要件が肌で分かっており、どのような技術が問題を解決し市場に広く活用されるか判断ができること

Q3 国内外の産学技術連携などによる技術開発のスピードアップと迅速なグローバル事業展開

RaaS用自動運搬車

ウェアハウスマネジメントシステム

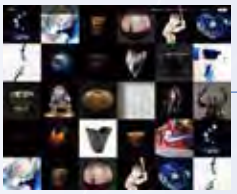
デリバリマネジメントシステム

スタートバーン株式会社

startbahn

アートが民主化され、文化のみならず財としても身近で重要な意味を持つ社会の実現

開発を主導するブロックチェーンを活用したアートのインフラ"Art Blockchain Network(ABN)"(https://artblockchainnetwork.com/)



ABNを活用し、ブロックチェーン証明書と共に日本の工芸作品を販売する、丹青社との共同プロジェクト"B-OWND"(https://www.b-ownd.com/)

ABNを活用し、アーティストやギャラリーが作品販売・証明書発行を行える自社サービス"startbahn.org"(https://startbahn.org/)

Q1 現代美術家であり、東大大学院学際情報学府出身の代表の施井が、社会変化のダイナミズムに反し、インフラ整備が遅れている業界の現状を危惧し、テクノロジーとアートの架け橋となるべく起業

Q2 日米で関連特許を取得していることや、ターゲット層にアプローチしているプレイヤーが少ないこともさることながら、業界事情をよく知り、能動的な更新を提案出来る立場にいること。Art Blockchain Networkをはじめとした活動によるアート×ブロックチェーンの日本における先導的企業としての認知度。また、自社でのブロックチェーンアプリケーションを継続的に行ってきた事による設計・開発の知見

Q3 今後コミットしていくブロックチェーンは未だ世界的にも法律や信用基盤が整っていない技術であるため、世界的な信用を獲得する意味で何より心強い存在

SWAT MOBILITY PTE. LTD.

SWAT

バス向けのオンデマンドダイナミックルーティング技術

Q1 オンデマンドバスサービスを通じて交通渋滞の解消や、通勤通学者に対しより便利な交通手段の提供、そして輸送システムにかけるリソースの最適化を実現し、社会にインパクトを与えることをビジョンに2015年に設立

Q2 目的地の異なる乗客を複数人乗せる輸送サービスを提供している事業者のほとんどが、大規模に乗客を乗せる事ができるがルートは予め決まっている、もしくはルートはリアルタイムに臨機応変に変更できるものの一般乗用車のような小さな車でしかサービスを提供できない。これに対しSWATはビッグデータを活用し機械学習を用いる事で、更に一歩進んだ技術として大型の自動車においてリアルタイムに乗客のニーズに応じながらルートを生成する事が可能。SWATの技術を通じて旅客輸送事業者は交通渋滞問題に対処出来るようになってきており、全体として必要になる自動車の数を減らすことも出来ている。また、エンドユーザーにとっても、より目的地に近いところで乗降が出来るようになっている。競合の多くはSWATほど高精度の乗客輸送効率化を達成できておらず、SWATはLi&Lim's industry benchmarkのインテリジェント輸送部門においてランキングのトップに位置している

Q3 ファイナンス、リクルーティング、マーケティング等経営戦略全般

株式会社 Zenmu Tech

ZENMU TECH

秘密分散技術で高セキュリティ社会に貢献し、
次世代のインフラストラクチャを提供

LIXIL モバイルPCのデータ保護にZENMU for PCを採用

Q1 エンドユーザの為に、利便性・生産性を犠牲にせず、「安心」「安全」なICT環境の実現を目指し、2014年に起業。セキュリティフリーの社会を実現するために、秘密分散技術を製品化

Q2 東京大学・東京理科大学・東京電機大学などとの産学連携による共同研究、秘密分散技術に精通した技術陣、これまでのIT業界のネットワークを活用したハイタッチ営業による市場への浸透が可能

Q3 経営戦略策定、ファイナンス、リクルーティング、東京大学をはじめとする学術ネットワーク、管理体制のサポート

Tellus You Care, Inc.

tellus

最先端の技術でエルダー・ケア（高齢者介護）を革新的に変える。

Q1 創業者二名の個々の介護の経験から、介護テック、特に睡眠関連の事業機会を見出す。

Q2 スタンフォード卒でグーグルやアップル、NASAなどを経験したチームメンバーが最新の技術を融合したソリューションを開発。

Q3 チーム組成、事業開発支援に期待。 特にチームはアメリカ・日本で優秀なエンジニアを集めたく、日本のアカデミアからのメンバーも積極採用

創業チーム

デバイス

ダッシュボード

株式会社ティアフォー

Tier IV Intelligent Vehicle

完全自動運転のプラットフォーム及びサービス事業による高付加価値な移動時空間の創出

Logiee_PV1

Milee_PV2

Minivan_PV3

Q1 名古屋大学等で開発されたオープンソースの自動運転ソフトウエア「Autoware」を使った完全自動運転システム開発の為、加藤真平准教授（当時名古屋大学、現東京大学情報理工学系研究科准教授）を中心にで2015年12月に創業

Q2 「Autoware」を軸に、完全自動運転のプラットフォーム事業と、完全自動運転によって解放される時間と空間を活用したサービス事業を展開。2017年12月に日本で初めて一般公道におけるレベル4（無人運転）の自動運転に成功

Q3 経営人材の紹介、経営への参画、グローバル展開

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社日本データサイエンス研究所

JDSC UPGRADE JAPAN

インパクトを重視したデータ活用サービス

宅配で不在配送先を予測してルートを最適化

Q1 P&Gやマッキンゼーで、データ活用が企業プロセスを根本的に変え、社会構造を変えうるものと実感したことから2014年に社団法人を設立。業績拡大に伴い株式会社化

Q2 東京大学の越塚研究室（情報学環、IoT・データ活用）、田中研究室（システム創生、AI・ブロックチェーン）などのアカデミアの知見と、ビジネス側の実務の連携を行えるメンバー。大学院生のエンジニアメンバーも多数在籍

Q3 創業支援。戦略からオペレーションに至るビジネスモデル実現支援、企業の全社的な改革・デジタル化への意思決定と舵取りを行える経営層へのアクセス、ファイナンス面でのサポート全般

図面情報の画像読み取りと加工の自動化

ニューラルポケット株式会社

Neural Pocket

AIエンジニアリングで未来の社会を形にする

ファッショントレンド解析サービス

画像・映像のAI解析技術

Q1 AIの実用化が各種産業で進む中、日本発のグローバルAIカンパニーを立ち上げ、これまでAI未踏の地であったアパレル業界において、消費者や産業への貢献のため

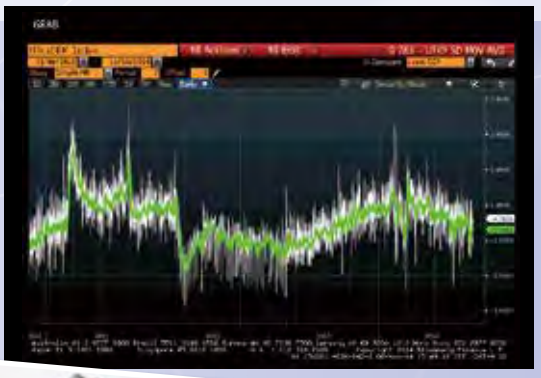
Q2 エッジAIを核とした独自開発をした画像技術を用いて、モビリティ、サイネージ広告、スマートシティ、スマートインフラ、アパレル需要予測等のサービスを展開

Q3 技術を強みとするスタートアップの競争優位性の明確化や、チームビルディング、ファイナンス、アカデミアとの連携サポート。また、これまで多くの事業に投資した経験に基づく、スタートアップの成長についてのアドバイザリー

株式会社Finatextホールディングス

FINATEXT　NOWCAST

金融を“サービス”として再発明する



日経CPI Now

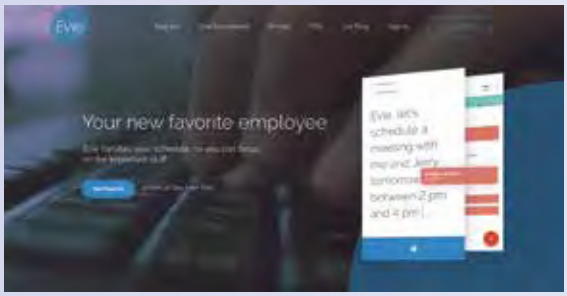
Q1 金融機関向けのサービス実績や、東京大学渡辺努教授の研究成果を活用し、これまでにないリアルタイム性の高い情報を、ビッグデータを用いて開発・提供することを目指して起業

Q2 金融に関する豊富な知識・経験を基盤に、誰にでも分かりやすいUI/UXに落としこみ、非常に短い期間で開発を行う技術力。総務省や日銀出身者、我が国を代表する統計学・経済学の研究開発陣によるビッグデータを活用した経済統計開発技術

Q3 経営レベル、現場レベル全般のハンズオン支援

代表取締役社長の林良太（左）と共同創業者の渡辺努（右）

投資先企業 IT



Evie.AI

Team Evie

Forty Two Labs Private Ltd.（Evie.ai）

人工知能アシスタント『Evie』によるスケジュール調整等の業務支援サービスの展開

Q1 人工知能を活用した業務支援サービス『Evie』を実現するため、Stanford大学を卒業後、Yahoo等に勤務していたJin Hian Leeにより2014年5月にシンガポールで設立

Q2 当社のAIアシスタント『Evie』は、スケジュール調整に留まらず、人工知能を駆使した多様なアシスタント業務への拡張性を有する点、及び企業レベルの品質を実現している点

Q3 『Evie』のグローバルな事業展開の支援や、東京大学等を含む世界の人工知能研究者を巻き込んだ技術基盤の強化の支援

Fyusion, Inc.

写真の歴史を変える空間写真アプリ「Fyuse」を展開、現実世界を3Dデータ化

Q1 米国Willow Garage社のロボット研究者らによる起業。投資先のMUJIN社と東京大学岡田慧准教授を通じて、Fyusion社創業者と接点を持ち、起業の相談を受けて、事業構想にUTECも協力

Q2 ロボット研究からの高度な3D画像処理技術、センサー・フュージョン技術、人工知能技術を駆使した撮影技術により、撮影者がスマートフォンで、大きいものは自動車、小さいものはアパレル商品などの被写体の周りを歩いて撮影するだけで、強力な手ブレ補正にて、圧倒的にスムーズな360°3D画像の描写を実現

Q3 UTECは、創業期からの事業構想に関与しシリーズAをリード。共同投資家の米国最大手VCのNEAと連携したグローバルな事業開発の支援・リクルーティングサポート

アパレル商品のFyuse 360°画像と画像タグ付け

手ブレ補正されたスムーズなFyuse 360°回転画像

被写体の周りを一周歩いて撮影

ビットコイン、イーサリアムをはじめ、国内主要6種類の暗号資産に対応

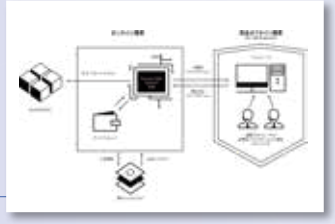
フレセッツ株式会社

暗号資産やブロックチェーン関連の技術を安全かつ便利に使うことの出来る社会の実現

Q1 2014年前後のBitcoin黎明期から数々の暗号資産関連の開発経験を有している日向理彦氏らが、現在の暗号資産取引所のウォレットシステムの脆弱性を解決するとともに、暗号資産・ブロックチェーン関係の更なる先駆的な製品開発を目指して起業

Q2 多様な暗号資産向けにウォレットシステムを開発する技術力の高いエンジニアが集結しており、今後とも暗号資産・ブロックチェーン分野で次々と革新的な製品・サービス群を開発するポテンシャルがある

Q3 技術者や幹部人材の採用支援、大学との連携、パートナー候補企業紹介



Fressets EWM System®システム構成図

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社レトリバ

レトリバ

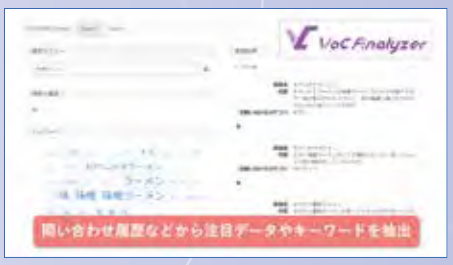
最先端の自然言語処理技術で、人の業務を支援するソフトウェアを作りたい

Q1 AI技術の自然言語処理や機械学習、深層学習に大きな可能性を感じ、株式会社Preferred Infrastructureから事業譲渡を受けて独立。同社で製造事業部長を務めた河原氏、同社出身で東京大学情報理工修士の西鳥羽氏、他4名で創業

Q2 自然言語処理や機械学習、深層学習への深い知識やノウハウを活かし、お客様の課題を解決するために最適な手法をより使いやすく製品にしている点

Q3 経営戦略策定サポート、リクルーティング、今後の資金調達支援、顧客等のご紹介及びパートナー先の開拓に期待

Answer Finder精度評価画面



VoC Analyzer分析画面

LOCIX Wireless Camera Product

Locix Inc.

LOCIX

革命的な無線センサー製品とサービスを開発し、スマート・ホーム及び商用アプリケーション向けに展開する

Q1 スマート・ホーム及び商用向けの究極の無線センサー製品とサービスを実現すべく、シリアル・テクノロジー起業家のVik Pavateと、革命的な無線センサー技術を持つ米カリフォルニア大学バークレー校のVivek Subramanian教授、Elad Alon准教授によって設立

Q2 超低消費電力技術、無線技術、高度なセンサー技術、電力伝送技術、データ・サイエンスを駆使した独自のプラットフォーム技術により、ハイパフォーマンスで設置場所の自由度の高い無線センサー製品を低コストで提供することが可能となる

Q3 UTECは創業期より関与し、シリーズAをリード。事業戦略面で特に支援を受けており、システムインテグレーターやOEM先等、主要なパートナー探しにUTECのネットワークを活用したい

株式会社ROMS

ROMS Robotics OMni Solutions

ROBOTICS OMNI SOLUTIONS: ロボティクスソリューションをオムニチャネルやサプライチェーンの様々な領域に展開

Q1 UTECを通じて知り合ったポーランド人2名と日本人1名が、小売りや小売りのサプライチェーンの無人化・自動化のソリューション提供を通じた社会課題の解決を志して、2019年6月に日本にHQ、ポーランドにR&D拠点を設ける形で共同創業

Q2 ポーランドチームが10年以上培った自動化やインテグレーション、ロボティクスの知見と、日本チームが10年以上培ったビジネスや事業開発、小売の知見とを融合、更にはグローバルの視点でのIssue Drivenアプローチが競争優位性

Q3 ファイナンス面のバックアップだけでなく、会社運営からリスク管理に至るまで取り組んでくれるFounding Partner

ポーランドの古都クラコフにあるROMS R&D拠点

共同創業者母校のポーランドAGH科学技術大学

日本・ポーランド国交樹立100周年目の2019年に共同創業

質問内容

Q1 起業の発端

Q2 何が強みか（競争優位性）

Q3 UTECのバリューアップ（貢献）

未電化地域に電気と明かりを届けます

連携する小売店（キオスク）の様子

WASSHA株式会社

Power to the People: 途上国に「電気のある暮らし」を届ける

Q1 CEO秋田が、市場のポテンシャル、社会的意義及び規制の観点から、アフリカを事業開始地域として選定。CEO秋田と阿部力也東京大学特任教授の2名によって2013年4月に共同創業

Q2 アフリカの地方部に点在するキオスク（小規模店舗）と連携し、百万人規模の消費者カバレッジと消費動向の詳細なデータを保有。また、経営陣はアフリカ・タンザニアに在住。現地メンバーと密接に連携したオペレーション、日本を中心とした大企業との連携、事業の実行力が強み

Q3 リードインベスターとして、経営へアドバイス頂き、必要に応じてパートナー紹介等も受けている

UTEC Portfolio Companies

MEMO

株式会社アルガルバイオ

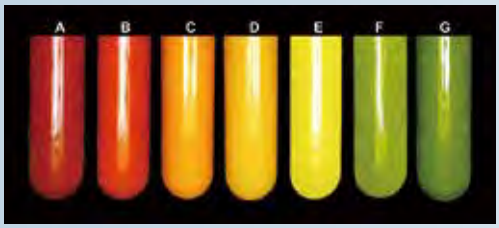
Algal Bio

植物と藻類が地球を救う

Q1 東京大学河野重行名誉教授の20年以上の藻類バイオ研究

Q2 藻類株の生成や藻類の培養・機能性成分の誘導における様々な知財を基に、数千種類の藻類株を保有

Q3 研究段階から事業化支援を受けている。創業、これからの事業規模化フェーズでも引き続きリードインベスターとして広範な経営アドバイスを期待



様々な機能性成分が育成されたクロレラ。
色はカロテノイド種や長鎖脂肪酸種に対応

通常の藻体(左)と超オイル藻体(右)

薄層光バイオリアクターでの大量培養

株式会社ASM

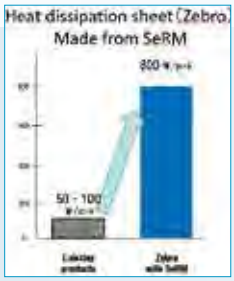
asmi.jp

2016年ノーベル化学賞受賞の「分子トポロジー」を実用化する
世界初の超分子材料“Slide-Ring Material (SeRM)”を提供

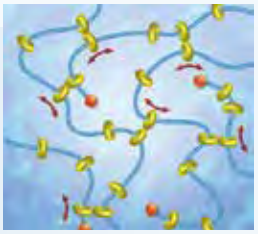
Q1 東京大学伊藤耕三研究室で発明された超分子SeRMは、高分子の世界に変革をもたらす基盤技術。これがもたらすアプリケーションのポテンシャルを認識した伊藤教授やUTECにおいて、素材産業で高まる関心に応えるために当社を創業

Q2 環動構造を有するSeRMという、2016年ノーベル化学賞受賞の「分子トポロジー(位相幾何学)」を実用化する超分子材料を提供する、今日では世界唯一のメーカー。東京大学の基本特許の専用実施権を保有する知財立脚企業。高分子材料に様々な新性能(強靭性、耐衝撃性、伸長性、復元性など)を付与する超分子材料で、既存の樹脂の抜本的強化、卓越した触力覚(ハプティクス)・形状復元性・振動吸収性・放熱性能の実用化などを可能にする

Q3 当社設立準備の段階から事業計画策定等で大きく関与頂き、設立後もリードインベスターとして、資金面のみならず、チームビルディングや経営面でご指導いただいている



既製品の10倍～の性能を有す
放熱シートを顧客とともに開発


SRMの構造:分子の滑車で架橋点が動く

ポリアミドの改質:耐衝撃性と
強靭性を飛躍的に上昇

エクセルギー・パワー・システムズ株式会社

Exergy Power Systems

Energy Transitionに取り組む欧米先進地域において、再生可能エネルギーの
急激な変動を柔軟に調整するフレキシビリティ・サービスを提供

ドイツアーヘン工科大学E.ON Energy Research Centerに設置された1MWシステム

Q1 東京大学で生まれた、次世代パワー型蓄電池を活用した省エネ技術を事業化すべく、UTECの支援により創業

Q2 電力需要家が保有する既存の各種分散電源と次世代蓄電池システムを連携運転することで、最低限の蓄電池容量でフレキシビリティ・サービスを送電会社(TSO)に提供するビジネスモデルと欧米での事業開発力

Q3 シード段階より、出資だけにとどまらず、事業開発、提携先企業との交渉等、様々なご支援を長期継続的に受けている

質問内容

Q1 起業の発端

Q2 何が強みか（競争優位性）

Q3 UTECのバリューアップ（貢献）

Green Earth Institute 株式会社

Green Earth Institute

世界が抱える「エネルギー」「食糧」「地球環境」という課題をコリネ菌で解決したい

Q1 地球環境産業技術研究機構（RITE）のコリネ菌という微生物を使った革新的バイオリファイナリー技術の実用化のため、日本初の“公益財団法人発ベンチャー”として創業

Q2 従来の発酵は、食糧と競合するバイオマスを使ってきたが、GEIは、茎や葉、木など非可食バイオマスを原料に、低コストで、バイオ燃料やグリーン化学品を製造可能。さらに、これまでの事業活動で培った国内外の幅広いネットワークを活かして、バイオリファイナリー産業の新しいプラットフォームを構築

Q3 UTECには会社設立準備から全面的にサポートしていただき、設立後もハンズオンでの支援を続けてもらっている

バイオ燃料やグリーン化学品を作るコリネ菌

間伐材や茎・葉など非可食バイオマスが原料

世界展開のための開発拠点“Green Earth 研究所”

908 Devices Inc

908devices

Creating elegant analytical 'tools' from mass spectrometry

Q1 ノースカロライナ大学 Michael Ramsey 教授（東京大学グローバルCOEプログラム 機械システム・イノベーション国際拠点 招聘講師）が発明した高圧力質量分析法を活用した革新的な化学分析ツールを提供するために起業

Q2 小型携帯質量分析計の開発・製造・販売に成功した世界唯一の会社。「小型」「携帯」がもたらす新しい分析手法・用途・顧客価値を発案・提供できるチーム力

Q3 日本及びアジアの市場開拓・パートナー開拓支援を期待

M908：世界初小型携帯質量分析計

NExT-e Solutions 株式会社

NExT-eS

先進のバッテリー制御技術でE-モビリティの普及促進と再生可能エネルギの導入拡大に貢献！

Q1 UTECのインキュベーションプログラムUTEC EIRを通じて、事業戦略を立案し、NEDOの助成金を基にプロトタイプを開発。その後、UTECからの創業投資によりチームビルディング

Q2 独自のバランシング技術およびIoTとAIを駆使したバッテリー監視システムによる蓄電池の再利用を通して、E-モビリティ分野とエネルギー分野をつなぐ複数ユーザに電池システムのリースサービスを提供

Q3 UTECは創業時からのパートナーであり、取締役としても経営参画。グローバルなメガトレンドをいち早く察知し、当社の強みを活かした斬新なビジネスモデルの構築を指導

自社製コア・デバイス

エネルギー分野の事例（E-バスのバッテリー活用）

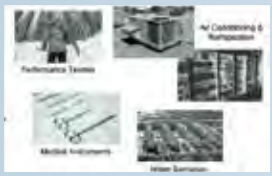
バッテリーライフサイクルマネジメント

投資先企業 Physical Science & Engineering

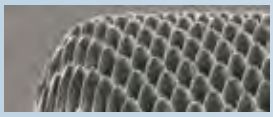
共同創業者 ウォルター氏、ベリーマン氏、ブロックウェイ氏

Nelumbo

UCバークレー／シンガポール南洋技術大学（NTU）発の素材加工技術でマテリアル技術にイノベーションを起こす



アプリケーション分野



表面加工イメージ

Q1 国際的な大学間連携研究を基に、全く新しいマテリアル技術のプラットフォーム可を試みる為起業。共同創業者でCEOのベリーマン氏はティールフェローで米国 Forbes30under30選出。CTOのブロックウェイ氏は米国エネルギー省フェローでLawrence Berkeley National LabやNASA Jet Propulsion Labの研究者を歴任。エンジニアリング担当のウォルター氏は60以上の特許や論文をもち、米国エネルギー省フェロー

Q2
- ユニークでイノベーティブな基盤技術
- アプリケーション毎に顧客と共同開発を行い成果を共有するビジネスモデル
- 優秀なチーム

Q3 橋頭堡市場であるHeating Ventilation Air Conditioning and Refrigeration（HVAC-R）市場は、製造に関して世界トップOEM10社中4社が日本企業。また、ユーザー市場も世界2位（中国が1位）。 日本、アジア市場での組織開発やビジネス開発に尽力

BionicM 株式会社

Powering Mobility for All.

Q1 自身も義足ユーザーの創業者がソニーでのエンジニア経験と東京大学でのロボティクス研究（博士号）を基に起業。起業前の3年間はUTECと共にJST STARTプログラムを活用して研究を進めた

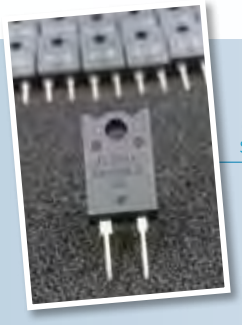
Q2 東京大学発のベンチャーとして、ロボティクス工学研究に基づく最先端テクノロジーを活用し、従来の義足の問題を解決し、自然な動きを実現する小型かつ軽量な高機能義足を生み出す

Q3 チーム組成、事業開発、ガバナンス機能

ロボティック義足

SXSW 受賞スピーチ

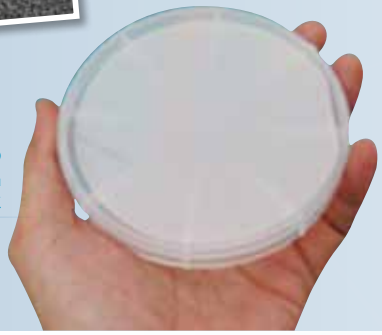
安全機能比較



α-Ga_2O_3を用いた SBD製品開発に成功

株式会社 FLOSFIA

新規パワー半導体「コランダム構造酸化ガリウム（α-Ga_2O_3）」を通じて省エネ革命を実現！



直径4インチの酸化ガリウム結晶製造法を確立

Q1 創業メンバーの一人が京都大学藤田静雄研究室発の「新技術」を使って新しいコランダム結晶材料を発見。事業化の為に京大メンバーが集結

Q2 京大発のミストCVD法と、当該技術を用いて作製するコランダム型酸化ガリウム系半導体技術に強み。ミストCVD法は非真空成膜技術で高機能・高品質な金属酸化膜を安価に作る画期的技術。酸化ガリウムはパワーデバイスとして圧倒的な材料ポテンシャルを持つ材料で、世界に先駆け開発を推進

Q3 日々直面する研究開発・人員体制・資本政策等のさまざまな課題に対し、豊富な成功体験を有し他社事例を知るキャピタリストが助言し、行動することで事業推進を加速

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

ベジタリア株式会社

vegetalia
Vegetat on Science & Technology

最新の植物科学とテクノロジーを駆使し持続可能な環境と健康社会を実現する

Q1 東京大学EMP修了後に就農。東京大学EMP関係者（講師陣、修了生）および各界有識者とともに食・農・健康・環境について議論を進め、各大学、政府系研究機関、各企業の技術・研究成果を融合

Q2 東京大学を中心とした各大学や政府系研究機関の研究成果を活かし、屋外計測モニタリングシステム「フィールドサーバ」、水稲向け管理支援システム「パディウォッチ」、クラウド利用型農業支援システム「アグリノート」、植物病理関連サービスを、グループで開発・提供。チームには、上場企業のCEO、CFO経験者などを擁する

Q3 大学発のシーズの紹介、政府へのアクセス、事業計画、販売などへの支援を期待

自社農場で（小池社長）

水田センサ「Paddy Watch」

世界初の大型マイクロ波化学工場
（化学品の生産能力は年3200t）

マイクロ波化学株式会社

Microwave Chemical

マイクロ波プロセスで世界のエネルギー・化学産業を変革する

Q1 大阪大学塚原保徳准教授の研究成果を活用し、「日本発の革新的技術を世界に広めたい」「新しいテクノロジーベンチャーを日本に起こしたい」「環境に貢献する事業を始めたい」という想いを実現しようと、起業した

Q2 マイクロ波プロセスを用いたもの作りを可能とするプラットフォーム技術、その技術を開発した化学・物理学の研究者・エンジニアを含む多様な専門家からなるチーム

Q3 パイロット設備建設の為に資金を提供。ほとんどのベンチャーキャピタルや金融機関が「ベンチャー企業が工場を単独で建設するなんて無理」と相手にもしてくれない中、私達の技術力と将来性を評価していただき、世界初のマイクロ波化学工場を建設できた

マイクロ波を用いた新製造プラント（顧客企業の工場サイトに建設）

株式会社ルートレック・ネットワークス

ROUTREK NETWORKS

「農業に休日を！」限られた地球資源で農業の生産性を高め、農業に休日をもたらす持続型社会

Q1 日本・世界の農業はAIやロボティクスの利用で効率化・自動化できる。明治大学小沢聖教授の作物栽培学研究の成果をベースに、水・肥料使用量と営農の手間を格段に減らしかつ収量を増加させるAIを搭載した農業機械のプロトタイプができたことが第二創業のきっかけ

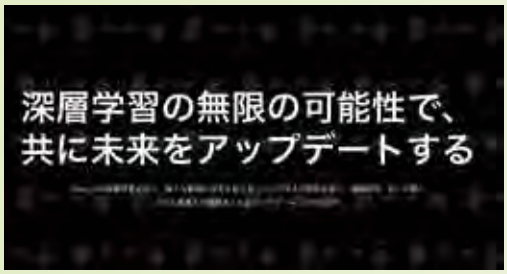
Q2 M2M製品を開発・販売していた確かな技術力をベースとし、また農学の知識を明治大学から得て共同開発することで、農業という現場に対し信頼できる製品を開発し販売できる。海外プレーヤーとの提携による対象市場の広さも強み

Q3 第二創業期における事業のかじ取り、海外事業でのノウハウの提供、IPOに向けての経営チーム補強や管理体制構築の助言等を期待している

灌水・施肥の自動化ロボットは約1年で投資回収が可能

新規就農家で2倍、熟練農家でも2-3割の収量向上の実績

質問内容
Q1 起業の発端
Q2 何が強みか（競争優位性）
Q3 UTECのバリューアップ（貢献）



Deep30 投資事業有限責任組合

深層学習の無限の可能性で、共に未来をアップデートする

Q1 深層学習などのAI技術はハードウェアとの連携が重要となってきていることから、既存のインターネット事業よりリスクをとった初期投資が必要となる。そのため、深層学習などのAI技術の実現可能性を見極められる投資主体の必要性を感じた

Q2 産学連携の橋渡しをしながら、社会実装のための技術的助言、バックオフィス支援などを行い、AI分野の研究開発、エンジニア育成、バリューアップまでの一貫したサポート体制を構築

Q3 VCファンド設立・運営に必要なビジネス・法務・財務等の各種知見の指導、投資先への企業紹介やフォロー投資

Blume Ventures – Fund III

インドにおいてTech/Earlyにフォーカスした最もアクティブかつ最大のファンド（AUM$200M）

Q1 Karthik Reddy and Sanjay Nathによって2010年に設立。2011年に初めのファンドとして$20MのFund Iを設立。その後2015年にはFund IIとして$60Millionのファンド及びIIAとして$41M、2018年にFundIIIとして$102Mを設立した

Q2 BlumeはインドにおいてDeep Techにフォーカスした VCのパイオニア。既にインドのDeep Tech分野のスタートアップであるGreyOrange、Tricog、Locus、Carbon Clean Solutions等多数の投資実績があり、Exit実績としてもOlacabsに買収されたTaxiforsure、Twitterに買収されたZipdial、Nutanixに買収されたMinjar等多数。Blumeは投資先企業のバリューアップにおいて、プラットフォームによるアプローチをとっている。具体的には、Constellation Blu（アドバイザリサービス）, Passion Connect（リクルーティング）, Draper Venture Network（クロスボーダーのサポート）, Arka（インド-米国のB2B tech）、BUDHA（ディープテック投資）等を活用.

Q3 UTECは日本で最大のLPであり、BUDHA（Blume UTEC Deep-tech Accererator）イニシアチブを共同で実施。BUDHAにおいては、Deep Science/Technologyを武器にグローバルマーケットに挑戦するインドのスタードアップを支援。BUDHAとしては、artanSense (Precision robotics for small farm holders), Ethereal Machines (5-axis additive and subtractive printing), Euler Motors (EV for last mile logistics), Agara Labs (conversational AI for customer support automation)、RayIoT (contactless monitoring of body's vital functions)等がポートフォリオとしてある

Blume Day 2020

Partnering with Exceptional Founders

UTEC Portfolio Companies

MEMO

Alumni

アラムナイ

国内外の第一線で活躍されるUTECアラムナイ（卒業生）の方々

AI inside

2019年12月、東証マザーズにてIPO

AI inside 株式会社　代表取締役CEO

渡久地 択 氏 Taku Toguchi

同社製品
DX Suiteの
利用画面

2004年より人工知能の研究開発をはじめる。以来10年以上にわたって継続的な人工知能の研究開発とビジネス化・資金力強化を行い、2015年に「生産性を高めるAIプラットフォームで社会問題の解決に貢献」という思想に基づき、AI inside社を創業。 徹底的な顧客視点でサービス開発と技術・経営戦略を指揮しながら、自身でも多数の技術を発明、特許取得し、当社製品の技術的優位性を確固たるものとした。 2019年12月、創業5期目で東京証券取引所マザーズに上場。

mujin

2019年2月　MBO

株式会社MUJIN　CEO兼共同創業者

滝野 一征 氏 Issei Takino

京東社のロボットによる
世界初の全自動倉庫

米国大学卒業後、ウォーレンバフェットの会社として有名な、製造業の中でも世界最高の利益水準を誇るイスカル社に勤務し、生産方法を提案する技術営業として多くの賞を獲得。2011年に世界的ロボット工学の権威であるロセン博士と同社を創業。世界一の産業向けモーションプランニング技術をもとに、知能ロボットコントローラ「MUJINコントローラ」を中心とする知能ロボットソリューションを提供し、物流、製造業界の現場で、今まで自動化不可能だった分野をロボット化に成功しており、生産性の大幅な向上を達成している。2018年JD.com社でロボット20台による世界初全自動倉庫を実現。2019年2月にMBO。

ACSL

2018年12月、東証マザーズにてIPO

株式会社自律制御システム研究所　代表取締役社長

太田 裕朗 氏 Hiroaki Ohta

完全国産の産業用
プラットフォーム機体

京都大学京都大学大学院航空宇宙工学専攻助教、カルフォルニア大学サンタバーバラ校中村修二教授研究グループ研究員、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て2016年7月に同社COOに就任。2018年3月より現任。京都大学博士。「技術を通じて、人々をもっと大切なことへ」を信念に、“自ら考えて飛ぶ”制御をコア技術とする産業用ドローンを活用したインダストリアル向け無人化・IoTシステム構築を展開。物流を初め、トンネル・水道管や橋梁、船内の点検、内閣府の要請による被災現場での活用等、様々なプロジェクトを推進。2018年12月に東京証券取引所マザーズ上場。

GLM

2017年9月、香港上場O Luxe Holdingsと資本提携

GLM株式会社　代表取締役社長

小間 裕康 氏 Hiroyasu Koma

トミーカイラZZ

2000年株式会社コマエンタープライズ設立、国内外の家電メーカーへのビジネスプロセスアウトソーシング事業を展開し、年商20億円に成長させる。2010年京都大学の『京都電気自動車プロジェクト』を母体として現GLM株式会社設立（旧社名 グリーンロードモータース）。2014年ベンチャーとして初の量産EVスポーツカーの国内認証を取得、2015年「トミーカイラZZ」の量産を開始。2016年次世代車両「GLM G4」発表。2017年9月香港上場企業のO Luxe Holdingsと資本提携し、欧州・中東・中国へのグローバル展開を目指す。

2015年5月、バイドゥ株式会社がM&A

popIn 株式会社　代表取締役社長

程 涛 氏 Tao Cheng

popIn Aladdin

東京工業大学卒業後、東京大学情報理工学研究科の修士課程での発明をビジネス化するため、2008年、修士在学中にpopInを起業。新たな記事コンテンツの評価指標「READ」を2014年にリリース、レコメンドサービスと共に日本、韓国と台湾の500以上の大手メディアサイトに採用される。2015年5月中国最大の検索エンジンを運営する百度（バイドゥ）と経営統合。現在、子育て家庭向けのシーリングIoT「popIn Aladdin」に注力し、ホームレコメンド事業を展開。

2013年6月、東証マザーズにてIPO
2015年12月、東証一部に上場

ペプチドリーム株式会社　代表取締役会長

窪田 規一 氏 Kiichi Kubota

特殊ペプチドとターゲットとの結合

日産自動車株式会社、現 株式会社エスアールエル、株式会社ジェー・ジー・エス代表取締役社長を経て、2006年、東京大学菅裕明教授のFlexizyme技術をコアとするペプチドリーム株式会社を設立、代表取締役社長就任、2017年より現任。同社独自の創薬開発プラットフォームシステムにより、多様性が極めて高い特殊環状ペプチドを多数合成し高速で評価することで、重要なヒット化合物の創製やリード化合物の選択等を簡便に行うことができる。2013年東証マザーズにてIPO、2015年東証一部に上場。第2回「日本ベンチャー大賞」受賞。

2011年9月、株式会社ミクシィがM&A

シニフィアン株式会社　共同代表
元 ネイキッドテクノロジー株式会社 代表取締役社長

朝倉 祐介 氏 Yusuke Asakura

創立時

兵庫県西宮市出身。競馬騎手養成学校、競走馬の育成業務を経て東京大学法学部を卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーに入社。東京大学在学中に設立したネイキッドテクノロジーに復帰、代表に就任。ミクシィ社への売却に伴い同社に入社後、代表取締役社長兼CEOに就任。業績の回復を機に退任後、スタンフォード大学客員研究員等を経て、政策研究大学院大学客員研究員。ラクスル株式会社社外取締役。株式会社セプテーニ・ホールディングス社外取締役。Tokyo Founders Fundパートナー。

2011年7月、東証マザーズにてIPO

株式会社モルフォ　代表取締役社長

平賀 督基 氏 Masaki Hiraga

手ブレ補正技術

1997年に東京大学理学部情報科学科を卒業。2002年、東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻（博士課程）修了。2004年、画像処理技術の研究開発や製品開発を行う株式会社モルフォを設立、代表取締役就任。コンピューターサイエンスは実学であるという信念に基づき、最先端の研究をただ理論で終わらせるのではなく、社会のニーズに適応させ活かすことを志向し創業。現在はグローバルスマートフォンメーカーに各種画像処理ソフトを提供、車載や監視カメラ、ネットワークサービスへの展開を推進。2011年7月、東京証券取引所マザーズ市場に上場。

2010年8月、ヤフー株式会社がM&A

ヤフー株式会社　取締役常務執行役員
元 株式会社シリウステクノロジーズ 代表取締役社長

宮澤 弦 氏 Gen Miyazawa

広告主が設定したエリアの近くにいるユーザーに広告が表示される仕組み

2004年東京大学卒業直後に株式会社シリウステクノロジーズを創業、代表取締役に就任。2005年にUTECから出資を受け、モバイルSEO事業や位置情報に連動したモバイル向け広告配信事業を手がける。2010年8月、ヤフーにより買収。その後、ヤフーにてインタレストマッチプロジェクト（現YDN）のプロジェクトリーダー、2013年4月より執行役員（最年少）・検索サービスカンパニー長を務める。2015年4月にメディアカンパニー長就任を経て、2019年10月より現職。

Team

多様なバックグラウンドを持つプロフェッショナルによるサポート

Partner

Tommy Goji

郷治 友孝

代表取締役社長 マネージングパートナー
UTEC Venture Partners㈱代表取締役

ファンド運営及びベンチャー投資全般の統括

- 2004年UTEC創業以来、UTECのチームビルディング、UTEC1号から4号まで540億円強の投資事業有限責任組合(ファンド)の設立・運用、科学・技術系スタートアップの投資育成戦略を担う。投資運用責任者として全案件に関与しながら、数々の投資先の役員に就任、これまでに11社が株式上場、11社がM&A等を果たす。
- UTEC以前は、通商産業省(現経済産業省)にて、我が国ベンチャーキャピタルファンドの根拠法となった『投資事業有限責任組合法』(1998年施行)、中小企業の研究開発から事業化までを支援する日本版SBIR制度(1999年施行)等を起草、文化庁、金融庁を経て退官。
- 近年はデータサイエンスを研究し、大学関連スタートアップの成功とその要因を推測・分析。

1996年4月通商産業省(現経済産業省)入省、2004年4月UTEC共同創業。一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会(JVCA)常務理事も務める。東京大学法学部卒、スタンフォード大学経営学修士(MBA)、東京大学大学院工学系研究科坂田・森研究室にて博士(工学)号取得。

Ted Yamamoto

山本 哲也

取締役
UTEC Venture Partners㈱取締役

IT分野及びグローバル戦略

- IT分野を中心とするシード/アーリーステージ投資を担当する他、グローバル戦略にも注力。
- 現在、投資先のVIVDQ LIMITED、(株)ROMS、SWAT MOBILITY PTE. LTD.、Forty Two Labs Private Ltd.(Evie.ai)、Locix Inc.、Fyusion Inc.等の社外取締役、(株)日本データサイエンス研究所(JDSC)の社外監査役、(株)ティアフォーの取締役会オブザーバー等を務める。
- これまでに(株)自律制御システム研究所(ACSL:2018年12月東証マザーズ上場 :6232)、EXIT先では(株)MUJIN(2019年2月MBO)、(株)フィジオス(2013年2月Googleにより買収)、(株)ネイキッドテクノロジー(2011年9月(株)ミクシィにより買収)等の社外取締役を務めた。

1994年三井物産株式会社入社、三井ベンチャーズにて日米でのIT関連のベンチャーキャピタル投資事業に10年間従事後、依願退職。2008年7月よりUTECに参画。オックスフォード大学理学部物理科卒業(M.A. Oxon)。

Nori Sakamoto

坂本 教晃

取締役

IT/AI, Life Science & Healthcare, Finance

- 経済産業省では、中小企業金融円滑化関連法案や家電リサイクル法の法案作成業務や未踏ソフトウェアプロジェクトに従事。退官後、アパレル流通のファミリービジネスに参画し、新規事業立上げ及び事業整理を実施。
- McKinsey&Companyでは、日本・東南アジア・欧州を中心に製薬、医療機器、自動車、ハイテク、消費財、金融機関等の業界各社に対し、営業・マーケティング、SCM、M&Aに関するプロジェクトに従事。
- これまで株式会社自律制御システム研究所/ACSL(2018年12月東証マザーズ上場 :6232)等の監査役を務めた。

東京大学経済学部卒業後、経済産業省入省。2008年経済産業省退官、流通事業会社の副社長を経て、コロンビア大学経営学修士(MBA)。McKinsey&Companyを経て、2014年8月にUTEC参画。

asmi.jp / WASSHA / Green Earth Institute / vegetalia / お金のデザイン / startbahn / Aidemy / Fressets / 30

FUSION / LOCIX / SWAT / Evie / Tier IV / ROMS / VIVIDQ

ELEMENTS / WASSHA / FINATEXT / Neural Pocket / JDSC / estie

ZENMU TECH / igs / レトリバ / tricog / BLUME / OPAL

Atsushi Usami

宇佐美 篤

取締役

Life Science & Healthcare, Medical, Agriculture

- ライフサイエンス分野を中心とするシード/アーリーステージ投資を担当。
- 現在、投資先のRepertoire Genesis㈱、五稜化薬㈱、エディットフォース㈱、㈱ミルテル、㈱Epigeneron、BUGWORKS RESERCH, INC.、bitBiome㈱、オリシロジェノミクス㈱の社外取締役等を兼任。
- JST START事業プロモーター、NEDO TCPメンターでの事業化支援や、東京大学ライフイノベーション・リーディング大学院コロキウムでの産学連携教育セミナーの講師(一社)ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J)のサポーター等を行う。
- UTEC参画以前には、株式会社三菱総合研究所にて、ライフサイエンス及び他分野製造業メーカに対する新規事業戦略立案、経営計画策定支援等の業務に従事。

東京大学大学院薬学系研究科生命薬学専攻にて、博士号取得、薬剤師。
株式会社三菱総合研究所にてコンサルティング業務に従事した後、2013年10月よりUTECに参画。

Keisuke Ide

井出 啓介

技術を軸とした「日本発世界標準」

- シリコンバレーでのエンジニアや経営コンサルティング経験を含む15年間の米国滞在後、東京のベンチャー企業を経てベンチャーキャピタル業界に入る。
- 現在、投資先のNelumbo Inc.、BionicM(株)、(株)アルガルバイオ、シーオス(株)、ルートレック・ネットワークス(株)の社外取締役を務める。 これまでにGLM(株)(海外上場企業によるM&A)、AI inside(株)(TSE4488)の社外取締役を努めた。
- 文部科学省大学発新産業創出拠点プロジェクト事業プロモーター、国立研究開発法人科学技術振興機構イノベーション人材育成メンター等を務める。

シリコンバレーでのエンジニアや経営コンサルティングの経験後、ファブレス半導体ベンチャーでは海外事業開発ディレクターとして従事。Globis Capital Partnersで8年間のコアテック投資を実施し、DMP(TSE 3652)、Phyzios(MA by Google Inc.)やIID(TSE 6038)を担当した後、2015年UTEC参画。バージニア大学工学部BS(Tau Beta Pi)、スタンフォード大学工学部MS(Honors)。Forbes Japan Midas List(2017)

Maiko Katadae

片田江 舞子

Life Science & Healthcare, Medical Device

- バイオテック、およびヘルスケア分野を中心に、ライフサイエンス関連の技術デューデリジェンス及び、シード/アーリーステージのベンチャー企業への投資業務を担当。
- 特殊ペプチド創製技術を応用した創薬事業を行うペプチドリーム(株)(2013年6月東証マザーズ上場、2015年12月東証一部上場)のディールソーシングを経て、マネージメントチームの組成、事業計画構築、および事業開発に関与し、監査役を務めた。

2005年6月UTEC参画。お茶の水女子大学理学部卒、東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻修了、博士(理学)。2013年『日経ビジネス』誌が選ぶ「次代を創る100人」に選出。2014年日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー準大賞受賞。

Team

Partner

Naonori Kurokawa

黒川 尚徳

Physical Science & Engineering,
Life Science & Healthcare

- 物理・化学関連技術に立脚したシード・アーリーステージベンチャー企業への投資に注力。
- 東京大学関連ベンチャーのみならず、その他の国内大学関連ベンチャー企業及び海外案件も幅広く手掛ける。
- 現在投資先のマイクロ波化学(株)、(株) FLOSFIA、クオンタムバイオシステムズ(株)、(株) MOLCURE、(株) PROVIGATE、immunoSCAPE PTE. LTD.、Elixirgen Therapeutics, Inc.の社外取締役を兼任。
- 全米のアカデミック研究成果を活用するベンチャー投資を手掛けるベンチャーキャピタル ARCH Venture Partnersを経てUTECに参画。

株式会社リコー環境技術研究所等で研究開発に従事した後、シカゴ大学留学中にARCH Venture Partnersにアナリストとして参画。2009年8月UTEC参画。大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了、シカゴ大学MBA。

Principal

Junya Yamazaki

山﨑 順也

Life Science & Healthcare

- 2019年6月よりUTECに参画、ライフサイエンス分野を中心とするシード/アーリーステージ投資を担当。
- UTEC参画前は、武田薬品工業(大阪・ボストン)において、研究開発プログラムの投資採算性評価、売上予測、予算・ポートフォリオ管理などの業務に従事。また、社外ライセンス案件について、主にファイナンスおよび臨床開発の観点からサポート。
- それ以前は、ゴールドマン・サックス証券およびジェフリーズ証券において、証券アナリストとして主に日本の医薬品セクターの投資調査業務に従事。

京都大学薬学部卒業。同大学院生命科学研究科博士後期課程修了、博士号(生命科学)取得。ゴールドマン・サックス証券およびジェフリーズ証券において、証券アナリストとして主に日本の医薬品セクターを担当。武田薬品工業を経て、2019年6月にUTEC参画。

Hiroaki Kobayashi

小林 宏彰

Healthcare/Life Science

- 2019年8月よりUTEC参画。主にヘルスケア・ライフサイエンス領域の投資及びビジネスのサポートを担当。
- 医療機器業界では、スタートアップ、大手メーカーにおいて、国内外での製造や販売等に関するアライアンス構築、アカデミアとの連携、KOLマネジメント、製品市場導入戦略など多様な業務を経験。
- 救急集中治療医としては、都心の大学病院や医療過疎地域の救命センター等で、軽症から最重症まで幅広い疾患分野をカバーする臨床業務、及び、研修医・医学生指導に従事。

東京大学医学部卒業後、同附属病院、日立製作所日立総合病院等で救急集中治療医として勤務。医療機器ベンチャーJOMDDを経て、フルブライト奨学生としてミシガン大学経営大学院(MBA)に留学。帰国後、大手医療機器メーカーでの事業開発本部を経て2019年8月にUTEC参画。

Associate & Data Scientist

Yuki Hayashi

林 佑樹

AI & IT,etc.

- 2017年よりリサーチアシスタントとしてUTECに参画し、デューデリジェンスや投資先への戦略提案に従事してきた他、社長とのデータサイエンスプロジェクトを遂行中。2019年より現職。
- UTEC参画以前は、東京大学大学院において、FAS産業のクライアントに対し、機械学習を利用した業務効率化の提案・ソフトウェア開発に従事。それ以前は、東京大学において、時系列解析・機械学習分野の研究に従事。大学在学中、アドテクスタートアップの日本法人において、社内データ基盤の構築に従事。

2017年よりUTECにリサーチアシスタントとして参画、2019年4月よりアソシエイト・データサイエンティスト。大学在学中、アドテクスタートアップの日本法人において、エンジニアを経験。東京大学大学院工学系研究科卒(技術経営戦略学)、東京大学工学部卒(機械情報工学)。

Venture Partner

Hideki Tsuji

辻 秀樹

UTEC Venture Partners㈱取締役

イノベーションによるエネルギー制約の克服

- 日本発の技術でグローバルにインパクトを与えるオープンイノベーション投資に注力。
- これまで、パリ協定後の再生可能エネルギー導入拡大やEモビリティ普及に資するMW級大型蓄電池システムの北米・欧州展開、Eモビリティ向けコアモジュールの中国・欧州展開、次世代型SOFC燃料電池の日本・欧州展開等の次世代技術の事業化を支援。
- UTEC参画以前は、インターネット・ソフトウェア関連スタートアップのCOOとして知的財産を中核にした戦略立案・事業開発を統括し、ソニー株式会社へのM&Aを実現。それ以前は、通商産業省にて、京都議定書交渉(COP3)等の環境エネルギー政策やイノベーション振興政策に従事。

東京大学法学部卒業後、通商産業省を経て、ヴィジョンアーツ株式会社にCOOとして参画。ペンシルベニア大学ロースクール修士課程・ロンドンビジネススクール修士課程修了後、2006年8月にUTEC参画。

Kiran Mysore

キラン マイソール

Seed, Early stage investment in AI, Healthcare & IT

- 2018年1月よりUTECに参画。ITおよびヘルスケア分野のシード/アーリーステージ投資を担当。現在、Tricog Health、Bugworks Research、およびOpalAIのボードオブザーバーを務める。
- UTEC参画前は、デロイトトーマツ ベンチャーサポート株式会社(DTVS)において、インド・東南アジアオペレーションヘッド。アジア全域において50社以上のDeep Techスタートアップ企業に対し日本企業とのコラボレーション等をサポート。また経済産業省とも密接に連携しながら、アジアのスタートアップ企業のためのCEATEC IoT Accelerationプロジェクトを主導。自身で学生主導のベンチャー企業Kriyaを共同創業した経験を有する。
- Stanford ASES(USA), St. Gallen Symposium (Switzerland)およびYenching Academy (China)においてYoung Global Leaderに選出。2020年、Finance&Venture Capital部門にてFORBES Asia 30 Under 30に選出。

DTVSにおいてインド・東南アジアオペレーションを主導し、ベンチャー企業Kriyaを共同創業。2013年、スタートアップで急成長中のオンライン旅行会社、Cleartrip Indiaにおいて企業分析を担当。2016年東京大学TMIの修士を卒業。Deep Learningを専門とし2017年にPICMETにおいて論文がパブリッシュ。東京大学工学部(SEUT)フルスカラシップ受賞。

Team

Venture Partner

Atsushi Shimada

島田 淳司

Life Science & Healthcare

- バイエル薬品経営企画本部事業開発において新規医薬品のライセンスイン、ノンコア製品のライセンスアウト、ライセンス対象の製品スクリーニング、ディール締結後のアライアンスマネジメントに従事。武田薬品工業では、知的財産部においてAmgen JapanやNycomedなどのM&A案件や多くの製品ライセンス案件のデューデリジェンスを担当。米国イリノイ州のTakeda Pharmaceuticals InternationalのGlobal Licensing and Business Developmentでは、バイオベンチャーとのライセンス案件に従事。また、国内大手特許法律事務所では、国内外のバイオベンチャー、製薬会社の知的財産業務に従事した。

2001年より国内大手特許法律事務所、2006年より武田薬品工業、2011-2014年Takeda Pharmaceuticals international出向、2014年よりバイエル薬品に勤務。2018年よりUTECに ベンチャーパートナーとして参画。大阪大学工学部卒業、IEビジネススクール修了。弁理士。

Controller

Hiroyuki Sakita

﨑田 博之

Administration

- ファンド管理、投資家対応、会社の管理業務全般を担当。
- 有限責任監査法人トーマツではマネジャーとして、上場会社・上場準備会社の監査業務、上場準備やM&Aのための各種調査業務、業務プロセス構築・事業計画策定等のアドバイザリー業務に従事。
- スタートアップにてファイナンス、経理・人事総務・法務等のコーポレート業務全般に従事。

2007年 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)入所。マネジャーとして監査業務・アドバイザリー業務に従事。スタートアップでのファイナンス業務・コーポレート部門立ち上げを経て、2018年1月よりUTECに参画。公認会計士。

HR Manager

Hirofumi Oki

沖 大典

Human Resources

- UTECでは、投資先におけるHR戦略のマネジメントを担当。経営者ソーシング、組織人事設計、採用戦略、ブランディングなど投資先の人事周りをサポート。
- 前職のイギリス系のヘッドハンティング企業では、ヘルスケアベンチャーのチームを立ち上げを行い、経営人材の紹介に従事。ヘルスケア領域における、ビジネスサイドから研究、工場・生産周りの人材まで幅広く提案。当ポジションのキャリアコンサルティングにも従事。
- 学生時代から一貫してスタートアップ企業の採用をサポート。人材紹介、採用ブランディング、組織人事設計などを経験。

在学中からベンチャーに特化した組織・人事コンサルティングのスタートアップに就業。Web/IT業界の経営人材のヘッドハンティング、ヘルスケアベンチャーへの採用コンサルティングを経て、2018年8月にUTECにHRマネージャーとして参画。

Epigeneron
REPERTOIRE GENESIS
SOCIUM
OriCiro
五稜化薬株式会社

Other Directors & Senior Advisers

その他役員及びシニアアドバイザー

茂木 敬司 Keiji Mogi

取締役(社外)

- 1964年上智大学外国語学部卒業、翌年ルーバン・カトリック大学修士課程ベルギー政府給費留学。
- 三井銀行(現三井住友銀行)にて、会長秘書、ニューヨーク支店副支店長、ブラッセル支店長等を経て、さくら銀行(現三井住友銀行)取締役、さくらカード(株)代表取締役副社長、ソニー生命保険(株)執行役員専務、英国Bridgepoint Capitalアドバイザー等を歴任。2007～2012年、帝京大学経済学部経済学科教授として教鞭を取る。
- 2006年より英国VenCap Internationalアドバイザーを務める。2010年6月、当社取締役(社外)に就任。

平野 正雄 Masao Hirano

取締役(社外)

- 1980年東京大学大学院工学系研究科反応化学科修士。スタンフォード大学大学院工学系経済工学修士、東京大学大学院工学博士。
- 1980年、日揮株式会社入社。1987年マッキンゼー入社、1993年マッキンゼー全社パートナー就任、1998年全社ディレクター(シニア・パートナー)、マッキンゼー日本支社長就任。2007年、カーライル日本共同代表に就任。
- 2012年より早稲田大学商学学術院(ビジネススクール)教授として教鞭をとる。日本ビジネスモデル学会会長。

高橋 浩之 Hiroyuki Takahashi

監査役(社外)

- 1985年東京大学工学部原子力工学科卒、1989年東京大学工学部原子力工学科助手、国際交流室講師、東京大学人工物工学研究センター助教授、高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所併任助教授を経て、2005年より東京大学原子力国際専攻教授、2014年より東京大学工学系研究科長特別補佐、生産技術研究所研究担当、2017年より東京大学工学系研究科社会連携・産学協創推進室長、東京大学産学協創推進本部副本部長を務める。2012年より日本学術振興会産学協力研究委員会第186委員会副委員長を務める。

中本 和樹 Kazuki Nakamoto

監査役(社外)

- 1976年大阪大学理学部数学科卒業。
- 1976年、大同生命保険相互会社入社。1998年同社取締役就任、2001年同社常務取締役就任、同社取締役常務執行役員、取締役専務執行役員就任を経て、2008年同社代表取締役専務執行役員就任。2010年同社常任監査役就任、2014年同社退任。
- 現在、学校法人近畿大学資産運用委員会委員、(株)クロスポイント・アドバイザーズ顧問。

大久保 勝彦 Katsuhiko Okubo

シニアアドバイザー

- 1965年東京大学工学部電子工学科卒業。スタンフォード大学エンジニアリング・スクールPh.D.
- 1965年、古河電気工業(株)入社、1995年同社取締役就任。常務取締役就任、専務取締役就任を経て、2005年同社退社。
- 2005年、(株)大久保技術経営事務所設立、代表取締役就任(現任)。現在、(株)精工技研社外取締役、日本スタンフォード協会副会長を務める。

冨山 和彦 Kazuhiko Toyama

シニアアドバイザー

- 1985年東京大学法学部卒業。スタンフォード大学経営学修士(MBA)及び公共政策課程修了。
- 1985年、(株)ボストンコンサルティンググループ入社、2001年(株)コーポレートディレクション代表取締役社長就任、2003年(株)産業再生機構代表取締役専務、業務執行最高責任者就任。2007年(株)経営共創基盤設立、2009年「JAL再生タスクフォース」サブリーダーに就任。
- 現在、(株)経営共創基盤 代表取締役、経済産業省 IoT 推進ラボ IoT 支援委員会座長。

UTEC

株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ

〒113-8485 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学南研究棟3F
Tel　03-5844-6671
Fax　03-5844-6672
Mail　info@ut-ec.co.jp
Web　https://www.ut-ec.co.jp

The University of Tokyo Edge Capital Partners Co., Ltd.

7-3-1, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8485, Japan
Tel　+81-3-5844-6671
Fax　+81-3-5844-6672
Mail　info@ut-ec.co.jp
Web　https://www.ut-ec.co.jp

2020.07.01.ver.